

金融ファクシミリ新聞連載中「ホモデウスと日本」

2018年7月6日第7350号

無断コピーおよび転送は固くお断りしております

序

ホモデウスと日本

Homo Deus and Japan

昨年、世界のベストセラーになった「ホモデウス」。日本でベストセラーになった「サピエンス全史」に次ぐ歴史家ハラリ博士の新作。ビッグデータと人工知能、アルゴリズムの急速な発達、遺伝子操作の進展などの結果、現代社会が2100年に向けてどのような姿容になるのか、こうした自書が英語では読まれている。ユダヤ人の著者は、ユダヤ教は農業社会の人々の行動規範として成立したと喝破し、近未来の人類の行動規範を予言している。「人の苦しみとわがこととして受け入れる人道的文化、ヒューマニズムが普及する」というのである。経済の論理には影響があるだろうか。近代工業社会は資本を必要とし、銀行制度と株式会社制度を必要とした。イノベーションの中核がアルゴリズムになれば、限界費用ゼロのビジネスがますます増えて、資本の論理とは違う経済が現れる。そのとき、経営者の価値観が投資家や消費者の選択の対象となることは、先般のフェイスブックの一件に象徴されている。

ディープラーニングについて気になる語を聞いた。米中はもちろん、ロンドンやベルリンに比べても東京の取り組みが進んでいないというのである。XとYの関係を1つの数式でなく、非線形の関数を含めて数十の回帰式でとらえるのがディープラーニング。大学生が1年も勉強すれば十分取り扱える技術だという。それでも上場企業や国立大学での取り組みは活性化していない。世界のプレイヤーと一緒に働いていないのだろうか。

次回から、技術の進展と地方創生の2つの視点から気になる話題を取り上げていきたい。

（経済産業研究所理事 岸本吉生）

※この連載は毎月第1金曜日に掲載いたします。

「ホモデウスと日本」は金融ファクシミリ新聞に毎月連載されていて、77編が2025年2月に『生命の輝き ホモデウスの生還』として金融ファクシミリ新聞社から発刊されました。この本の全文は以下の通りです。

想いを形にする。

経営支援が仕事になってから、この言葉が好きになりました。

他人と違うことをするにせよ、同じようなことをするにせよ、想いを形にしたいと働く多くの方にお会いしたからだと思います。

私たちの毎日は、宇宙と地球と生命が織りなす物語です。一人一人の想いや行動が将来を変えています。人類の行動が地球に与える影響が、他の種のいのちを脅かす時代を人新世（anthropocene）といいます。1950年くらいからとされています。世界最初の商用コンピュータが完成したのは1951年です。コンピュータ技術の進展と社会への普及は私たちの暮らしを変え続けています。生態系への影響ははるかに大きくなりました。

イスラエルの作家ユヴァル・ノア・ハラリ（Yuval Noah Harari）は、39歳の時に「ホモデウス」を著しました。人工知能と遺伝子組換え技術を両手に持つ新種の人類ホモデウスが、2100年にかけてどのような歴史を描くかを展望しています。ハラリの結論は「ホモデウスはホモ・サピエンスよりも愛に満ちた動物になる」というものです。この結論が正しいとすれば、私たちと次の世代は、どのような毎日を生きていくのでしょうか。6年前、金融ファクシミリ新聞社からコラムの連載を依頼されたとき、この問いが私の脳裏にありました。

天然資源がない。他国との交流は交易が中心で戦いが少ない。災害を受け止めて衣食住を営もうとする生活態度がある。雨と雪のおかげで草花と樹木に恵まれている。そうした風土に生まれた日本人は、どんなホモデウスになろうとするのでしょうか。地球という惑星でホモデウスが生き残ることに私たちの文化が役に立つのでしょうか。

神戸市で生まれた私は、高校を卒業して生家を出ました。東京大学に入学し、通商産業省に入省しました。東京とマンハッタンだけに住

み、日本が世界の中でどう生き残るかばかりを考えて働いていました。はじめて霞が関を離れたのは48歳の時でした。愛媛県警察の本部長として勤務したおかげで、街なかもそうですが郡部の集落を訪れる機会が数多くありました。なかでも久万高原町の旧美川村は、四季折々に訪れました。いつしか土居商店は心の垢を落とす「いのちの洗濯の場」となりました。愛媛県の二年間は、限界集落、郡部の小中高校の教育、地場産業、職人と商人について考える契機となりました。抱える問題は集落ごとに異なることも知りました。

45歳の時から神戸市にある独鈷山鐫射寺に、大阪大学の森勇介教授にお供して参詣しています。大阿闍梨の中村公隆様から数々のことを教えていただきました。いのちと仏様は同じなんだという教えは今の自分を形づくっています。

その教えの中に「年月が経って価値が増すものを大切にする」があります。明治までの文化にはそのような傾向があり、大量生産大量消費には逆の傾向があります。マスとしてとらえることは、個性を埋没させる。一つのいのちの輝きはほかのいのちに代えられません。職人の仕事はまさしくいのちの輝きです。作品の個性は時代を超えて光を放ちます。その思いを大切にして仕事をするように心がけています。

S N S から発信するメッセージの力には、国家や巨大企業と一人の人間に差がない世の中になりました。買い物や情報交換はいながらにして行えます。遠く離れていても心と心が通じ合えます。同じ勤め先の仲間でなくても一緒に仕事ができます。

複数のわらじを履いて、複数のプロジェクトを手がける働き方が当たり前になるでしょう。そんな環境を与えられたホモデウスは何に精を出すのでしょうか。

いくつかのものが集まった時に、思いがけない性質があらわれることを「創発 (emergence)」といいます。1950 年からの人新世は大衆社会でした。これからはどうでしょうか。

遍在するコンピュータのおかげで、個人と個人が学びあい、助け合い、励まし合う社会になると期待しています。大衆社会では、他人と自分を社会から比べられることが日常でした。これからは、他人と自分に価値の違いはない。そう考えて他人と自分の差異を楽しむ時代だと思います。そんな社会を「他己社会 (たこしゃかい)」と名づけています。

若いホモデウスはどんな毎日を披露してくれるでしょうか。他己社会を実践する若いホモデウスとそれを応援するおとなのホモデウスが世界中に現れると思います。活躍の場はスポーツ、芸術、エンタテインメントだけではないでしょう。伝統文化、教育、福祉、衣食住の分野で、他己社会を目指すホモデウスが活躍するでしょう。そんな若い世代を「常若甲子園 (後掲のQRコードを開いていただければ詳細が分かります)」というプロジェクトを通じて応援しています。参加料はありません。他己社会を大切にする世代を超えたフォーラムです。

77 回のコラムは、全国各地を訪問し、自然と先祖を拝んできた方々の息吹、生まれ育った農山漁村を営む方々の心意気をお伝えするものが多くなりました。北海道から沖縄まで、お世話になった方々のことを書かせていただきました。お会いした皆様には言葉に尽くせぬご恩があります。この場を借りて皆様のご健康とご活躍を心からお祈りいたします。

この本は、金融ファクシミリ新聞社の島田一社長のお計らいにより出版のはこびとなりました。島田社長からご依頼がなければコラム「ホモデウスと日本」は生まれませんでした。島田社長に厚く御礼申し上げます。また、経済産業省、経済産業研究所、中小企業基盤整備機構の皆様に、在職中から執筆を認めていただいたことへの感謝を申し上げます。

電子書籍の表紙は、故磯野宏画伯の1枚をお借りいたしました。地球環境と日本の将来をどう折り合わせていくのか。そのことを産学官で話し合う研究会、「21世紀の環境と経済と文明の研究会」の扉絵として、05年、愛・地球博の年に使わせていただいた懐かしい絵です。熱帯のジャングルに住む動植物は、先進国の人間の仕業がつつがないことを願っています。この本のテーマと同じメッセージだと感じます。磯野代始子様のご厚意に感謝いたします。

この本のメッセージが、自分と社会の将来を自由に構想したい皆さんのお役に立ちましたら幸せです。

2025年2月

世田谷区の自宅にて

岸本吉生



— 目次 —

(1) 「序」	1
(2) 「データ社会の問題解決に哲学も」	2
(3) 「試される時代に乗る視力」	3
(4) 「次回の議長国日本に強い期待」	4
(5) 「ブロックチェーンへの期待」	5
(6) 「ベンチャーを育てるエコシステム」	6
(7) 「高齢者自立支援への投資が重要」	7
(8) 「福岡発の海外ベンチャー」	8
(9) 「イスラエルに学べ」	9
(10) 「インドからスタートアップを」	10
(11) 「スタートアップの発射台」	11
(12) 「社会課題先進国の可能性」	12
(13) 「価値創造こそが重要」	13
(14) 「門前町の100年ビジョン」	14
(15) 「環境と自然をモデルに」	15
(16) 「量子生物学で負荷削減」	16
(17) 「バイオデザインという方法論」	17
(18) 「ソーシャルベンチャー活動」	18
(19) 「日本全体で高めあう五輪に」	19
(20) 「ポストLCC時代と京都」	20
(21) 「山水郷と第四次産業革命」	21
(22) 「超成長都市 福岡の秘密」	22
(23) 「オンライン社会と担い手」	23
(24) 「コロナ間氷期」	24
(25) 「新製品の開発に至るまで」	25
(26) 「地方創生 高校と大学のこれから」	26
(27) 「旅のひと」	27
(28) 「限界集落と団地の自治」(前編)	28
(29) 「限界集落と団地の自治」(中編)	29
(30) 「限界集落と団地の自治」(後編)	30
(31) 自然から学ぶ智慧はおとしもの	31
(32) 2040年代を考える	32
(33) 常若(とこわか)産業宣言	33
(34) 離島に残る愛郷心	34

(35) 職業高校から故郷を思う	35
(36) X R 総合展	36
(37) デジタル・マーケティングはどこに向かうのか	37
(38) ネイティブな発音から始める英語	38
(39) デジタル化で変わる会社と仕事㊤	39
(40) デジタル化で変わる会社と仕事㊦	40
(41) 山水郷	41
(42) 西瀬戸内海の離島半島	42
(43) 常若を支える活動	43
(44) 関係の重要性を学ぶ	44
(45) 持続可能なキャリア	45
(46) デザインに関するコンサルティング	46
(47) W T T H を望む	47
(48) 四国の右下	48
(49) 動かない希望の星	49
(50) 火と水の交わり 古老の言葉	50
(51) メタバース	51
(52) 一生青春	52
(53) 泛駕之馬	53
(54) 愛南町には愛がある	54
(55) 他己社会	55
(56) 社会課題を解く研究心	56
(57) 集合的無意識（上）	57
(58) 集合的無意識（中）	58
(59) 集合的無意識（下）	59
(60) 十五の春	60
(61) 生活者の感性	61
(62) 動かない希望の星との出会い	62
(63) いのちの洗濯	63
(64) 輪島塗の心	64
(65) 巣箱選び	65
(66) 前払いという被災地支援	66
(67) いのちを運ぶ鉄の自然科学㊤	67
(68) いのちを運ぶ鉄の自然科学㊦	68
(69) 喜びと共感を体験するキャリア教育	69
(70) エネルギーを使わないライフスタイル	70
(71) 環境と経済と文明	71

(72) 環境基本法の視点	72
(73) 相互理解と融和をうながす政府.....	73
(74) エッフェル塔の思想.....	74
(75) 喜怒哀楽と誇り	75
(76) 体感治安.....	76
(77) 教育現場の遊撃手	77
(78) 霊山にまもられる	78
(79) もしも共和党が.....	79
(80) 卒業制作.....	80
(81) 行動習慣.....	81
(82) 衣食住何れともつかないひと時.....	82
(83) 自分の人生をマーケティング	83
(84) ポルトガルとスペインから見た日本	84
(85) オープンイノベーション	85
(86) 北海道の左上 オロロン街道	86
(87) 転倒予防の靴下開発.....	87
(88) 手づくりの想念.....	88
(89) 土に帰る.....	89
(90) 人文.....	90
(91) 和の政治の二票.....	91
(92) 継往開来.....	92
(93) 四国遍路.....	93
(94) 第三次共生主義宣言.....	94
(95) 先代が今生きていたら	95
(96) レンマの知性 ホモデウスとレンマ①.....	96
(97) 華厳教が示す縁起の論理 ホモデウスとレンマ②.....	97
(98) 縁起の論理の数学 ホモデウスとレンマ③.....	98
(99) 直観を磨く ホモデウスとレンマ④	99

(1)「序」

2018.7.6

昨年、世界のベストセラーになった「ホモデウス」。日本でベストセラーになった「サピエンス全史」に次ぐ歴史家ハラリ博士の新作。ビッグデータと人工知能、アルゴリズムの急速な発達、遺伝子操作の進展などの結果、現代社会が2100年に向けてどのように変容するのか。こうした良書が英語では読まれている。

ユダヤ人の著者は、ユダヤ教は農業社会の人々の行動規範として成立したと喝破し、近未来の人類の行動規範を予言している。「人の苦しみをわがこととして受け入れる人道的文化、ヒューマニズムが普及する」というのである。

経済の論理には影響があるだろうか。近代工業社会は資本を必要とし、銀行制度と株式会社制度を必要とした。イノベーションの中核がアルゴリズムになれば、限界費用ゼロのビジネスがますます増えて、資本の論理とは違う経済が現れる。そのとき、経営者の価値観が投資家や消費者の選択の対象となることは、先般のフェイスブックの一件に象徴されている。

ディープラーニングについて気になる話を聞いた。米中はもちろん、ロンドンやベルリンに比べても東京の取り組みが進んでいないというのである。XとYの関係を1つの数式でなく、非線形の関数を含めて数十の回帰式でとらえるのがディープラーニング。大学生が1年も勉強すれば十分取り扱える技術だという。それでも上場企業や国立大学での取り組みは活性化していない。世界のプレイヤーと一緒に働けていないのだろうか。

次回から、技術の進展と地方創生の2つの視点から気になる話題を取り上げていきたい。

(経済産業研究所理事 岸本吉生)

HOME

(2)「データ社会の問題解決に哲学も」

2018.8.3

パリに本部がある国際比較法学会。その第20回学会が福岡市で開催された。ホスト役は、九州大学の河野俊行教授。昨年から世界文化遺産を選定するICOMOSの委員長を務める国際派でいらっしゃる。

九州大学の関係者が尽力したテーマはデータ社会と法学。シェアリングエコノミー、自動運転、人工知能、忘れてもらう権利など、法律学者だけでは難しいテーマをあえて用意し、エンジニアや企業経営層を含めて論じる場が設けられていた。

特に、今年5月に発効したEU委員会の一般データ保護規則（GDPR）に関しては、EUからの参加者が次々に問題点を提起するなど、データと技術革新、表現の自由とプライバシーをはじめ、価値の調和の取り方について、議論を尽くすことが難しいと実感した。

個人の履歴、健康状態、身体的特長（写真を含む）など恥ずかしいものや不名誉なものまで、いったんデータで保存されると自分の支配の外に出てしまう。利便性を手にする半面、プライバシーを守るとは難しい。ブロックチェーン技術に期待する向きもあるが、アルゴリズムに法人格をとらせて責任を追及すべきとの議論も出てくる。

日本では、データ社会と法律の問題は、企業やイノベーションの問題ととらえられがちだが、データサイエンティストと法律家、哲学者が価値論までさかのぼって議論を尽くす舞台づくりが必要になっているのではないか。

（経済産業研究所理事 岸本吉生）

HOME

(3) 「試される時代に乗る視力」

2018.9.7

慶応4年を明治元年と改元してから150年。私たちは、4つの産業革命の影響を受けている。第三次産業革命はIT技術で私たちの暮らしを変えた。車や住宅のシェアリング、越境ビジネスのネット・マーケティング、多様な決済手段。国際電話も画像送信も無料になった。産業革命は、動力、素材、電気など規模の経済を促してきたが、いまではスピードやアイデアの競争が主戦場だ。

ウィンドウズ95が登場した年に生まれたデジタル・ネイティブは社会人となった。この世代は、エネルギーや生態系に関する認識、大きな組織への忠誠心、言葉の通じない相手との仲間づくりに新しい風を運ぶ。日本選手がアジア大会で大活躍した背景には、選手に合わせた育成策の貢献もあるだろう。この世代がほかの分野でも大いに活躍するために、デジタルに明るいとは言えない世代がどう応援するかが問われている。

第四次産業革命では、機器と機器が常時つながり、アルゴリズムに従って仕事をする。自動車の運転から解放されれば大量の自由時間が生まれる。テレワークにより通勤時間が自由な時間になる。看護や介護は今よりも少人数でできる。運転免許の更新、所得税の確定申告は自動になる。そうして得られた時間を人類は何のために使うのか。

社会貢献という方もあれば、趣味や深い知識・経験、デザインなど誰かを喜ばせるという方も。いま起きている動きに目を懲らし、流れに乗る。その動態視力が問われているのではないか。

(経済産業研究所理事 岸本吉生)

HOME

(4)「次回の議長国日本に強い期待」

2018.10.5

蔵相会合が99年から開かれているG20。08年からは首脳会合が開かれ、関連する大臣会合や関連イベントも増加している。主催国の政治力を補う仕組みの1つがT20。開催国のシンクタンク(thinktank)が中心になって、世界の学者、有識者の提言を受け取り、G20首脳会議に伝達する。ドイツは精力的にT20を活用し、今年もアルゼンチンの2つのシンクタンクが活躍した。9月17日には20の提言を含むコミュニケが、マクリ大統領に手渡され、11月の首脳会合に活用される。

アルゼンチンから見た世界は、日本とは違って見える。第四次産業革命は成長と社会の発展の機会でもあるが、南米が置き去りにされる脅威でもある。農業貿易国家にとって、先進国の保護主義的な動きは新興国、開発途上国の国際収支と経済成長を脅かす。

何よりも、今回出席して感じた最大のことは、南米だけでなく、欧州にも、多角的貿易体制が崩壊するとの深刻な危機感が共有されていること。アメリカが築き上げたブレトン・ウッズ体制の根幹を守ることに、次回議長国日本への強い期待がある。同時に、人材に投資し、企業の売り上げを伸ばして雇用を増やす。日本の成長戦略と同じ政策の枠組みをG20各国がシェアすることも期待されている。

マクリ政権は、マクロ・金融面で国際的な信認の低下に苦労しているが、IMFとの協調、開放経済路線を取りながら国民の支持を何とか維持しようとしている。各国の経済政策の協調には、国際的な世論が重要な役割を果たすと改めて認識する機会となった。

(経済産業研究所理事 岸本吉生)

HOME

(5)「ブロックチェーンへの期待」

2018.11.2

ブロックチェーン技術は、その幕開けがビットコインという形で現れたため、金融技術、仮想通貨と関連付けて、その社会的インパクトや足元の課題に注目が集まりがちである。

リーマン・ショックの後の金融界において、特定少数の金融組織が影響力を持つ通貨制度ではなくて、個人間で安心して取引ができる暗号通貨に関心が高まったことは、今日の技術の発展を支える精神的なバックボーンとなっている。

この10年の社会実験の結果、ビットコインに関して言えば、偽造もできないし、取引履歴が確実に把握できるという効果が確認された。また、イーサリアムは、そのプログラムの特性として、自動実行の契約ロジックまで取引履歴に残せるために、スマートコントラクト（アルゴリズムが自動判定する人または他のコンピュータとの約束）を現実のものとする道を開きつつある。

次の課題は、取引速度の高度化、1円未満のごく少額取引の実用化、ICO段階での責任の所在の明確化、特に、国際的に予見可能な事業環境の整備ではないか。4月に東京で行われたハッカソンを見学する機会があった。100人近いブロックチェーン技術者が世界中から集まり、各自の腕を競い合い、ベトナム、ネパールなどから優秀な技術者が参加しており、大学教育も及ばない新規分野ならではのと感じた。

ブロックチェーン産業の育成にはいくつかの政策関与が考えられるが、最も大切なことは自主性を尊重する環境ではないか。日本の地の利を生かして、内外のエンジニアが新しいビジネスを生み出すことができるよう、長期的な視野に立って政策の舵（かじ）取りが行われるかどうか、国内のみならず、世界中の期待が寄せられている。

(前経済産業研究所理事 岸本吉生)

(6)「ベンチャーを育てるエコシステム」

2018.12.7

昨年11月、イスラエルのコーヘン経済大臣が来日した際に、日本イスラエル・イノベーションネットワーク総会が開催され、5月には安倍総理がイスラエルを訪問し、このネットワークの活用でネタニヤフ首相と一致した。

スタートアップ国家戦略を標榜するイスラエルには7000社以上が存在しており、300以上のR／Dセンターが海外の一流企業と事業提携をしている。優先分野はコンピューターと健康医療。同国最大のVC、Pitangoは、健康医療に特化したチームを編成し、日本、中国をはじめ外国と提携したビジネスを志向している。

自動車では、CASE (Connectivity、Autonomous、Shared、Electric)の分野ごとに、目標の設定、概念実証、実用化と手順を踏むベンチャー企業が多数活動しており、日産自動車とトヨタが事業提携を開始している。

先月、日本イスラエル・イノベーションサミットが東京で開催された。イスラエル企業との事業提携に積極的に取り組むことも課題であるし、官民のスタートアップ政策の強化も急務である。東大エッジキャピタルは創立15年を経て、アルゴリズムをはじめ、学生起業家の輩出が本格化し始めており、機運は高まっている。

日本の比較優位が発揮されるベンチャー・エコシステムはどのようなものなのか、多くの主体が他国に学びながら実践している。四季のある気候風土に根ざす自然と精神性、長きにわたって激変を免れた歴史・文化は、日本ならではの「感性に強みをもつビジネス」の苗床ではないか。

(前経済産業研究所理事 岸本吉生)

HOME

(7)「高齢者自立支援への投資が重要」

2019.1.4

日本の65歳以上人口は、1950年にはわずか5%であったが、2030年には3人に1人に達する。健康寿命の伸びも著しい。10年前の追跡調査においても、80歳男子の70%、同じく女子の85%が多少の助けがあれば日常生活が営めている。

ここ数年、防災・災害産業や健康・長寿産業の見本市が全国各地で開かれ、多数の来場者が参加している。画像センサー、超音波センサー、データ解析プログラムなどにより、携帯端末に必要な情報を供給し、従事者の省力化に貢献するサービスが年々進化してきている。

高齢者にとって、自らの意志で、他人の世話になるべくならずに過ごし、親しい仲間と語らうことは生きがいになる。こうした社会的課題に対して、若い世代と経験豊富な医療・介護関係者が協力して、実践的なサービスを導入することは、社会保障負担を減らすことにも大きく貢献する。

科学技術振興機構（JST）の社会技術研究開発センターでは、理論・実証的な研究の枠を超えて、高齢社会のデザインの領域で15ものプロジェクトを実施している。若い研究者にとっては、実践的な研究は論文として価値が認められにくいという問題もあるようだが、地域を守るために多くの若い世代が、新しい発想や技術を応用することを待望している。

成長率や利益率という尺度では、AIやIoTなどにはかなわないが、高齢社会の世界の先頭を担っていることを考えると、こうした分野に対して、リスクマネーが供給され、社会的に意義の高い製品・サービスが生まれ、世界の高齢者に貢献すると期待される。

（前経済産業研究所理事 岸本吉生）

HOME

(8)「福岡発の海外ベンチャー」

2019.2.1

スタートアップ都市宣言を12年に行った福岡市は、14年に創業・雇用創出の国家戦略特区に指定された。高島市長がシンガポール、フィンランド、フランスなど海外のパートナー都市を精力的に回り、海外での支援を受けるとともに、インバウンド創業の支援、グローバル・スタートアップセンターを運営している。毎月180件の相談があり、その90%は海外からの問い合わせだという。民間企業に任せた入居型支援施設がG r o w t h N e x t。弁護士、起業コンシェルジュなどを無料で利用でき、既に150社が起業している。

福岡市の政策は、短期間で成果が出た部分もあるが、底流には90年代後半からの福岡県のベンチャー政策の文脈がある。クリエイターとコンピューター・プログラマーが出会う場を創設したり、九州大学と組んで、研究開発型の創業を促したりする取り組みが継続してきた土台があって、開花している。

イギリスから福岡に移住したある起業家は、「福岡市長に直接支援すると言っていただけでとても勇気が出た。海外のスタートアップ展示会に参加したときに、福岡市の出展があり、日本にも企業化に親切な都市があると知り移住に至った。海外からのインバウンド起業家はこれからも増えていくだろう」と語ってくれた。その企業はタブレット端末のアプリ関係であるが、起業家の母国で有望なビジネスをまず日本で始める、といった流れが本格化すれば、日本のベンチャー・エコシステムは世界とつながっていく。

(前経済産業研究所理事 岸本吉生)

HOME

(9) 「イスラエルに学べ」

2019.3.1

人工知能、自動運転、サイバーセキュリティで日本でも話題になるイスラエル。この国のベンチャー・エコシステムを支えているものは何なのか。根底は資源も物づくりの基盤もないなかで経済発展を成し遂げるには頭脳に頼るしかないという共通認識。シリコンバレーで働いた者の帰国などもあり、アメリカの大企業の研究開発拠点を誘致しながら、スタートアップを同国の経済省が支援するプログラムが成果を挙げている。人材の供給源は皆兵制度。一番優秀な男女はサイバー攻撃部署に配属され、兵役終了後大学でコンピューター・サイエンスを専攻し、その分野のプロとして産業界に転じる。

ユダヤ人文化もベンチャー・エコシステムを支えている。日本語では、めちゃくちゃとか混沌を意味する「バラガン」が国民性。思ったことは突拍子のないことでも行動に移し、周囲も当たり前のことと受け止める。失敗は当たり前で、何回も周囲がつきあう。創業者がその初日から、国内市場ではなく海外企業との商談をめがけて製品のコンセプト、試作品開発に挑む姿には敬服する。

仕上がりの水準が高いことと、商談相手との契約内容を明確に意識して取引先に飛び込むことも日本が学ぶべき点がある。無重力空間で金属や化学品の結晶化実験をする躯体、風速1メートルでも発電できる小型の風車、レーザープリンターのインクを何回も消去できるコピー用紙。いずれも日本市場での販売をという熱気にあふれている。日本にも同じ水準のベンチャー企業は多数ある。海外市場での成功を支援する環境を整備する必要を実感する。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(10)「インドからスタートアップを」

2019.4.5

おなかをこわすから気をつけて。人生観が変わるそうですね。インドの農村とバンガロールのスタートアップ企業を訪問する前に、一様にアドバイスを受けた。

この数年、4Gの通信網が全国にいきわたり、都市5億人、農村8億人のインドに地殻変動が起きている。スクーター程度で隣の村か郡の中心都市にしか通えなかった農村の暮らしが動画で世界とつながったのである。逆浸透膜の安価な浄水器がレストランに普及して食あたりも激減した。アセアンの地方都市と比べると、アーメダバードやバンガロールの町並みは整然として道路もきれいに舗装されている。優秀な頭脳が海外で勉強し持ち帰った成果が、まちづくりや大学教育に生かされている。インドはいまいちど、この眼で確かめる価値がある。

シリコンバレーと人的なつながりが強いIT先進国。日本の製造産業との連携を強く望んでいる。インドの大学には、実用化を支援してなんぼという雰囲気がある。そのひとつがIIS (Indian Institute of Science)で、数十の専門課程で2800人の博士課程が学ぶ。建学の理念は、社会の物質的繁栄への貢献。スタートアップ企業を選抜して技術の実用化をともに進めるプログラムがある。

フィンテックや医療福祉の分野は、日本では社会制度が稠密(ちゅうみつ)に整い、前例のないサービスや製品が市場に参入するには時間が掛かる。日本発のスタートアップが世界に打って出るときに、インドの大学とベンチャー・キャピタルのサポートを受けることは、彼らの能力を考えても、事業展開のスピードを考えても意義が大きいのではないか。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(11)「スタートアップの発射台」

2019.5.3

問題には、3つのタイプがあるという。Simple（単純）、Complex（複雑）、そして Wicked（厄介）。課題も解決策も明快な作業は Simple。解決が困難な問題が Complex。Wicked は、問題を定義することも困難な問題。シリコンバレーのスタートアップを見ると、どのような顧客を対象にどのようなビジネスをするかという、いわば Wicked な次元に、創業者が仲間とともに相当のエネルギーを費やしている。

ビジネスの目標ができたなら、概念設計と試作品開発に進む。その間の費用は、投資家が出資した資金が充てられ、銀行借入は行わないのが原則。出資額という予算と、期間という制約のなかで、試作品をつくる。このプロジェクトをマネジメントするのが、創業者と投資家。2人は同じ船に乗って成功に向けてまい進する。この段階では、目標の達成のために、外部の力も借りて、プロジェクトを首尾よく進めなければならない。NASAの宇宙計画の過程で生まれたプロジェクト・マネジメントの技法が、民間ビジネスマンの資格としても普及している。

暮らしの精神的満足が顧客の大きな関心となり、ITの急速な変化によりビジネスで解決できる問題領域が日々広がるいま、大学での専門的な知見と、プロジェクト・マネジメントの経験の双方が必須になっている。

スタンフォード大学のデザイン・スクールを訪問すると、専門分野の違う学生が、10万ドルの予算と1つの課題を与えられ、1年間かけて試作品を開発する光景に出会った。このような機会が国内のいくつかの大学にあることは、スタートアップ・エコシステムを発展させるために大きな意味を持つのではないか。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

(12)「社会課題先進国の可能性」

2019.6.7

スタートアップに投資するかどうか、ベンチャーキャピタリストが判断材料として重視することは、本人が持つ熱量と、社会課題に挑むその内容だという。インドのムンバイにあるアービッシュカールというベンチャー・キャピタルは、新しい技術に着目するのではなく、創業者の情熱に注目して投資する。20年ほどの歴史を持つ同社が最初に手掛けたのは、インドで最も貧しい地域の農村に、生乳のサプライチェーンを構築することだった。構築できれば、大きな市場となることは明白だったが、だれもがこの地域ではできないと考えていた。このキャピタルが重視するのは、目新しい技術ではなく実行力。

日本では、イノベーションと言えは今ない技術を利用することを指すことが多いが、既存の技術を組み合わせることによって、新しい市場を創りだすことができる。わが国では、学校教育や医療福祉は公的制度に裏打ちされているが、スタートアップの創意工夫によって、英語コミュニケーション、アルゴリズム、健康長寿など生活者のニーズを引き出すビジネスが生まれる余地が大いにある。

ものづくりとは違って、サービスの生産性は時間効率では計れない。レストランや美容院の値段が店によって大きく異なるのは、顧客の満足をどこに見出すか、製品と比べてはるかに選択肢が多いからである。社会課題先進国の日本が、こうした分野のイノベーションに成功すれば、日本だけでなく、世界のビジネスに発展するのではないか。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(13)「価値創造こそが重要」

2019.7.5

先日お会いしたスタートアップの経営者は、高専から大学に編入学して博士号をとった人物だった。思いついたことを形にするのは自然に手が動くという。美大の卒業生にもそうした能力を持つ方がいらっしゃる。

国内有数のある大学では、これまで100社近いベンチャー企業が設立されて上場企業も誕生しているが、売り上げが100億円を突破した会社はまだないという。技術を研ぎ澄ますことと売り上げを伸ばすことの間になにがあるのか。顧客価値を提供する具体像を描く際に、自由に発想して形にする方法論と経験が弱いからではないか。普通高校が5教科7科目制を一律に採用し、かたや大学では特定の分野に特化してしまうことが関わっていると感じる。

心理学や美術を学んだ卒業生がロースクールやビジネススクールに入学するのがアメリカ。複数の背景を持つことで、多様性と自由な発想を生む土壌がある。さらに、アメリカは日本の自動車や半導体産業が成長した80年代後半以降、理系人材にアートやプロジェクト・マネジメントを履修させる方針に転換をした。リーン・スタートアップが提唱されたのは11年であるが、それより20年前も前から、デザイン思考を含めて、新規プロジェクトを文献的に、他社と協力して成功する方法論が試行錯誤され、大企業においても定着している。

資金調達、企業法務・税制、組織マネジメントは大切であるが、価値創造こそスタートアップの使命。アメリカの経験と蓄積を活かして、国内の大学、高専で価値創造の方法論を実践した卒業生が夢に向かってまい進することを期待したい。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(14)「門前町の100年ビジョン」

2019.8.2

世界遺産の高野山（和歌山県）には多くの外国人が訪れているが、そこからさらに3時間の熊野にもヨーロッパを中心に外国人が訪れている。そのきっかけとなるのがダブル巡礼証明書。スペインにある世界遺産サンティアゴ・デ・コンポステーラと熊野の両方を巡礼した人だけに証明書が発行されるのである。われわれ日本人が熊野に行ってもその存在は目につかないが、SNSの世界ではその気になればすぐに知ることができる。

日蓮宗の修行の場、身延山門前町（山梨県）には20数軒の宿坊があるが、そのなかにトリップアドバイザーでおもてなし9.8という高得点の宿坊がある。スタッフは英語を少し話す程度であるが、宿泊する外国人の感想を記すノートを置いて日々研鑽を重ねている。ドイツ人の男性が、宿泊体験をきっかけにスタッフに加わり、コミュニケーションが一気に高まっている。今では宿泊可能な部屋数が悩みだという。日蓮宗の街という起源を大切にしながら、世界に開かれた普遍的なメッセージをどのように出していくのか。その中心に、東京から移住した若い世代がいることは心強い。

こうした街の将来ビジョンを描くことは簡単ではない。これまでの集客方法や顧客層があり、外国人が来ることへの心配もある。それを乗り越えて、いくばくかの外国人に定着してもらえば、その土地の歴史や文化を楽しむ輪が広がっていく。旅館街のある温泉町も同様。どのようなレベルの街づくりを目指すのか、教育委員会も含めて市町村が100年ビジョンともいうべき街の理念を、時間をかけて集約して形にする作業が必要となっている。

（中小企業基盤整備機構 岸本吉生）

HOME

(15)「環境と自然をモデルに」

2019.9.6

世界遺産となった福岡県宗像市の宗像大社。ここでは14年から、国際環境会議が開催されている。その特色は、海の環境を良く知る研究者や全国の有識者が集まることである。今年のG20で対策の方向性が示された海洋プラスチックについては、3年前の会議で詳細な報告がされていた。その後、世界中で機運が盛り上がったことはご案内の通りである。

今年は、地元の若い漁師が、プラスチックの状況を良く知っていても回収する手立てがありませんと発表した。隣の福津市はウミガメが上陸する日本最北端の地域。まずは、中国、韓国と近い玄界灘をモデルにして、官民で何ができるのか、調査と提言をまとめることが重要と感じた。

宇沢弘文博士は、市場に任せておけない財産として森林、海洋、教育などを挙げ、社会的共通資本と定義した。その具体化はこれからであるが、SDGsが政府と大企業中心の取り組みにならないよう、今一度、根底から考える時期に来ているように思う。

1つの着眼点は、環境と観光の組み合わせ。ごみを捨てない、有害物質を排出しない、という環境対策から、美しい自然、おいしい天然水、森里川海の連環など、自然に対する敬愛をベースに、皆が憧れる美しい地域を目指してはどうだろう。信州松本市は、おいしい水と空気、美しい風景で知られているが、外国人観光客が訪れたい都市のトップ3に入っている。松本城よりも高いビルを建てない、電線を地中化する政策を堅持している。高い効率で豊かさを手にした日本の次なる目標は環境と観光ではないか。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(16)「量子生物学で負荷削減」

2019.10.4

私たちの体を成す、食べた栄養の消化や新陳代謝に必要な酵素というたんぱく質。その酵素の働きは、私たちが高校までの物理や化学で習った現象とは異なるようだ。最先端の科学者による研究は日進月歩であり、そのメカニズムが解明され始めている。キーワードは量子力学。

原子核の周囲を回る電子がとなりの原子に飛び移るのが、量子力学におけるトンネル効果。われわれ生物は、微生物を含めて、それに必要なエネルギーを太陽からの光子から得てトンネル効果を活用している。動物の細胞内のミトコンドリアや、植物の細胞内のクロロフィルは、酵素の機能によって、工業的なプロセスよりもはるかに効率良い形で物質を変換している。詳しくは「量子力学で生命の謎を解く」(出版・S B クリエイティブ)をお読みいただきたい。

この分野は量子生物学という分野であるが、その発展は現代文明が地球にかけている負荷を減らすことに大きく役立つ可能性がある。そのひとつが量子コンピュータである。アメリカのMITの量子コンピュータ技術者は、植物が量子コンピュータの機能を発揮しているという論文を読み、それまでの研究内容を見直すことになった。人間の脳のような省エネルギー型のコンピュータが将来誕生する可能性がある。また、酵素を用いて生活や製造プロセスから生じる廃棄物を処理すれば、酸やアルカリのような有害物質に依存しなくて済む可能性がある。人工知能やIOTに関心が高まっているが、この分野の発展が人類にもたらす恩恵にも注目する必要があるようだ。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(17)「バイオデザインという方法論」

2019.11.1

日本の医療機器は、計測器の系統は国産があるが、治療器はアメリカ製が多い。製薬と医療機器には違いがあるようだ。そのギャップを埋めようと東京大学、東北大学を中心に医療機器開発のエコシステムを構築する動きが4年前から始まっている。バイオデザインという取り組みである。

心臓のバイパス手術では、肉眼では見えないほどの細かな作業があり、ダビンチという手術機械が誕生した。それを超える機械が開発中である。医師が直面する困りごとを潜在的ニーズとして掘り起こし、それを解決する方法を医師、エンジニア、デザイナーなどさまざまな人に加わってもらいアイデアのたな卸しをする。この段階では、何がいいとか悪いとかは評価せず、200にも及ぶアイデアを出し尽くす。そして、規制、安全性、経済性など複数のスクリーンで数個を選ぶ。試作はわずか数カ月で行う。これまで数百人の若い人材が参加し、既に5つの特許と1つのライセンス契約が生まれているという。

バイオデザインは、スタンフォード大学で生まれた方法論であるが、この方法論を生み出したことによって、ビジネススクールやエンジニアと医学校との連携がよくなり成果につながっている。医工連携とひとくちに言うが、やはり成功のためには共通の方法論が基盤となる。来年にはバイオデザイン学会が設立され、より多くの大学も加わり、活動が拡大する予定である。日本の高齢化社会問題は、世界の医療関係者が注目しているようだ。日本発の医療機器が、人類の健康長寿に貢献することを期待したい。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(18)「ソーシャルベンチャー活動」

2019.12.6

ベンチャー企業のエコシステムの隣には、社会課題を解決しようと独立する若い人材のエコシステムがある。

いま、金融庁の行政が転換して、地域課題を解決する共同金融組織のトップのなかに、このエコシステムを担おうと活動する方が出始めており、その1人が第一勧業信用組合の新田信行理事長である。SDGsを経営方針の中核と宣言して東京23区に引きなおした目標を設定し、創業支援ファンド、アクセラレータプログラムと並んで、地方と23区をつなごうと全国36の金融機関と提携している。

先月22日、新田理事長も参加して、第1回ソーシャルベンチャー活動支援会議が都内で開催された。主催者の新井和宏さんは、EUM Oという会社を立ち上げ、ソーシャルベンチャーのための「共感社会資本」の発展に尽力されている。北は仙台から南は那覇まで6つのスタートアップとそれを支援する方のプレゼンがあり、会場は熱気にあふれていた。京都信用金庫の榊田隆之理事長、飛騨信用組合の古里圭史常務理事も登壇し、これから起きる変化へのビジョンを語られていたのが心強い。金融庁の日下智晴室長からは、ソーシャルベンチャーをサポートする金融機能が重要であり、そうした方向に舵(かじ)を切る金融機関を応援するエールを送っていただいた。

ベンチャービジネスと言えば、リスクマネーと考えがちであるが、地域への共感、理念への共感を基盤とする共同金融組織の活動は、大きな組織よりも自立を選ぶ若者たちの強い味方になっていくのではないか。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(19)「日本全体で高めあう五輪に」

2020.1.10

オリンピックの開会式まであと200日弱。選手がコンディション万全で活躍し、多くのメダルを獲得することを皆で祝福したい。

先日、オリンピック委員会の山下泰裕会長のお話をうかがう機会があった。

選手に選ばれてプレッシャーはないのですか、という質問がよくあるが、長い間夢見たオリンピックに出場することは喜びそのものであり、そんな心配はいらない。地元開催は応援が大きいから元気百倍になる。自分が努力した成果が本番で生かせるかどうかは、声援や期待を感じることができることに大きく左右される。自分の最大の任務は、選手たちがそうした心境で活躍できる雰囲気を作ることだ。日本全体で高めていくことなんですと話された。オリンピック委員会にはいろいろな役割があるのだろうが、こうした点に一番重きを置く山下会長がおられて、選手やコーチたちはどんなに心強いだろう。

業績を可視化して管理する風潮があるが、スポーツの世界では、それだけでは勝者にはなれないように感じる。データに基づいて自らを高めることは大切だが、やってやろうという空気をチームが持てるかどうか。達成型組織、多元型組織の先を行くテール組織の現場では、管理職はおらずコーチだけがいるという。上下関係や業績目標はなく、一人一人が、もっと良い仕事をするために、コーチの助言を生かしながらチームで助け合う。山下会長の目指す世界と通じているのではないだろうか。選手たちの活躍が、私たちの組織にも元気をくると胸を膨らませている。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(20)「ポストL C C時代と京都」

2020.2.7

京都での賀詞交歓会の翌日、最近の町家の変化をどう思うか意見を聞かせて欲しいと、地元の友人とともに歩いてみた。祇園祭の山鉾巡行で有名な四条通り室町界限、四条烏丸の西北、呉服屋が日本一集まっている地域である。

この1～2年、呉服屋のビルが外国人観光客向けのホテルに改装され、京都らしさがなくなってしまうか心配だという。スーツケースを引くアジア人観光客が多数見られ、ビジネス街から観光地へと変貌を遂げ始めている。改装されたホテルは、町家となじむよう、和風のデザインがされ、通りの看板も目立たない。

町家歩きは楽しいし、寺社仏閣、おいしい食べ物は、200カ国の観光客に幅広く人気があるだろう。外国人が増えたときの言葉やサービスの難しさを考えると、外国人向けに専門化した高級なホテルが増えることはむしろ好ましく、地元ビルオーナーの課題は、宿泊客のレベルにふさわしいセンスの良いレストランやカフェを増やすことではないか、と感想を述べた。

そんな京都で「ポストL C C時代のアジア」という小さな展示会が16日まで開かれている。域内の自由な移動を実現したEUと同じように、L C Cのおかげで都市間の物理的・心理的距離が近くなったアジアが、これからどうなるのか。アジア4カ国7人の芸術家が作品を展示している。コロナウイルスの影響で、足元では反対の動きが起きているが、その先ではより高いレベルの混交が起きるだろう。室町界限がそんな交流の名所になることに注目したい。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(21)「山水郷と第四次産業革命」

2020.3.6

都心の高層マンションに住む共働きエリート家族と、地方の農山村に住む若者たちの間には接点もなく、会ってみても共感することもない。そうした見方に一石を投じる本が、井上岳一さんの「日本列島回復論」である。

大企業のサラリーマンという職業に、安心が伴わなくなり、それよりも、実際に助け合える人間関係を求めて、SNSでのつながりを重視する働き方、生き方を選ぶ若者が増えている。

人のつながりに加え、水や食料が身近にあることも重要で、そうした恵みがある地域を山水郷（さんすいきょう）という。自動運転、遠隔医療など第四次産業革命の実装が山水郷で行われるようになれば、世代を超えて心豊かな暮らしができる。

1都3県には1部上場企業の62%が存在し、人口3000万人のうち、76%は出身も東京圏。東京圏の若者が山水郷に移住する意義に思いをいたす時期なのだろう。

山形県庄内平野に立地している慶応大学先端生命科学研究所はその一例。自然豊かで時間がゆっくり過ぎる環境は研究に向いているという。

企業の本社を地方都市に移すことは、山水郷での暮らしにつながる。企業が自治体と一体となって、教育、まちづくりまで協働することで、さまざまな成果があがることは、石川県小松市でのコマツの活動からも明らかだ。仕事はエキサイティング、暮らしはスローライフと一粒で二度おいしい。外国人とのビジネスでの交流にも、これから山水郷が活用されるのではないか。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(22)「超成長都市 福岡の秘密」

2020.4.3

後輩からいただいた一冊の本、『超成長都市「福岡の秘密」』。若くして地元に戻り、福岡市をはじめとする官と民を結ぶプラットフォーム、FDCの事務局長として大活躍中の石丸修平さんの著書だ。

九州の未来に福岡市が果たす役割は大きい。小学校の跡地を利用したグロウス・ネクストを核として、都市圏という広がりをもって、筑豊、長崎県の壱岐、平戸まで活動が広がる。

フランスのボルドー、アメリカのシアトル、フィンランドのヘルシンキなど海外のスタートアップ都市との協働が特色。協定先からすれば、アジア各国のゲートウェイとしての位置と、海外からのスタートアップへの福岡市の支援、地元のスタートアップとの交流が可視化されていることが大きな魅力だという。

九州で成功したら次は東京と考えずに、世界の似た都市圏にビジネスチャンスがあると考え視点を持つのは貴重な存在だ。開業率が7%と政令市21市のなかで3年連続1位というのもこうした取り組みの結果だろう。

実証実験と社会実験に熱心なのも福岡市の強みだ。昨年3月から1年間、福岡市への引っ越し・証明案内をLINEから受け取ると、24時間自宅にしながら手続きを進める実証実験が行われた。実証実験が社会実験に移行すると、社会実装を官民で確認し、そうしたなかで規制緩和も本格的に実施される。国家戦略特区の指定がされて5年が経過したが、スタートアップを核とする成長都市に向けて、福岡市の取り組みは、広がりや深みを増している。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(23)「オンライン社会と担い手」

2020.5.1

オンラインのコミュニケーションは、フェイスツーフェイスにとって代わるのか。遠隔教育や遠隔医療は、その利便性が指摘されながら制度的な兼ね合いもあり、その浸透度は国際的にみて高かっただろうか。

移動しないで用が足りるのであれば、移動時間を有効利用できるし、エネルギー消費も減少する。特に、長距離の移動を伴う時、移動時間がない時、オンラインは便利だ。ステイ・ホームを契機に、通院、学校、飲み会までもオンラインに移行している。15年前、クールビズは、それまで礼儀とされていた背広とネクタイをなくし、空調文化を変えた。

いま、私たちは、オンライン社会への親しみを深め、リテラシーも短期間で高めるだろう。会ったことのない人との約束に不安を感じないで済む社会は、かつてなく現実味がある。知らない街で知らない人の車で目的地まで行けるウーバーは、レンタカーやタクシーにとって代わりつつある。オンライン社会は確実なログが残る分、紙の取引に比べて安全性が高い面もある。

外国の情報、外国語の情報は、フェイスツーフェイスよりもオンラインの方が優位性はさらに高い。フィリピンに住む英語の家庭教師、ハンガリーに住む数学のアドバイザーなど、英語圏で当たり前になっているサービスが日本でも本格的に広がるのではないか。中学生、高校生の時期に、こうした習慣を身に着ければ、留学する時間とお金がなくとも、国際的に活躍する人材が多く育つ。

サウジアラビア政府では、今回のCOVID-19対応に、アメリカ留学経験のある若い官僚が、SNSを駆使して、日本以上にきめ細かな情報発信をしていると聞いた。留学しなくてもこうした人材が育つとすれば、すばらしい。(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

(24) 「コロナ間氷期」

2020.6.5

先日、SNSで案内をいただいて、「コロナ間氷期」という座談を拝聴した。シンガポールでスタートアップ支援をする方、日本の自治体のデジタル・トランスフォーメーション（DX）を担当する方などが出演して、この2カ月の変化と今後の展望を語り合った。そこには3つのキーワードがある。

第1は、リモート対応を含めたDX。リモート対応は不可逆的に進み、リモートを含めて生産性を上げるためのDXが公的部門を含めて広汎に進むだろうということ。多くの住民に短期間でサービスを提供するために、これまでとは違う次元で、自治体のデジタル手続きが短期間で進むのではないか。

第2は、高校生以下を含めたデジタル・ネイティブが各国で活躍するという。ある自治体では、コロナ対策用のアプリの改善を地元の高校生が担った事例があるそうで、GAF Aをしのぐ新しいアプリが、こうした若い世代から次々に出てくる。既存の仕組みがないほうが、新奇性のあるアプリを構築するには有利だという。

そして、海外とのリアルのやりとりの回復。シンガポール政府は、ワクチンか有効な治療薬が出るまで、コロナ対策は厳しく対応すると宣言しているが、その一方で、ビジネスのために外国人とのリアルな交流を進める対応もしている。EU各国も15日以降、国際交流を解禁していくなかで、日本の出遅れを心配している。

東京を中心とする国内の動きと、海外の動きとを並行して見ておく必要性を感じるプログラムだった。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(25)「新製品の開発に至るまで」

2020.7.3

スタートアップを担当して以来、新しい製品・サービスを思いつく過程を考え続けている。大学の研究室、大手企業の開発部署、暮らしにヒントを得た女性など、いろいろな成功事例がある。

アメリカ・イリノイ大学の研究チームが、新製品・サービスを特定するまでの方法論を、大企業の開発現場を念頭において提唱したモデルがある。顧客がお金を払っても手に入れたいものを特定する作業、言い換えれば、課題の発見と把握にたっぷりと時間をかけて、チームとしてこれだという結論に至ることが重要で、開発が終われば、生産と改善を繰り返すプロセスにはいる。

イノベーションには、何もないところからはじめるブレークスルー・イノベーションと、改善前・改善後を比較できる段階的イノベーションがある。前者にゴーサインを出す人は誰なのか。トップの姿勢が大切という議論もあるが、こうした経験のある人物に責任を委ねないと、チーム外の意見に左右されてスピードが下がったり、陳腐な仕上がりになってしまうリスクがある。

費用と時間の関係もあって、アプリを利用したサービスの開発が盛んだが、組織と資金、顧客とのチャネルのある大企業こそが投資家にふさわしい分野はいろいろある。

リモートで働くことが大企業で当たり前になると、若い社員の行動もより自由になる。コーポレート・ベンチャーキャピタルに加えて、真新しい製品・サービスが自前で誕生しやすくなるのではないだろうか。課題設定から開発までのチームを盛り立てる雰囲気がかぎを握る気がする。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(26)「地方創生 高校と大学のこれから」

2020.8.7

スタートアップのエコシステムは、地方創生に必要な要素ではないか。そう考えて、先日から、北海道、埼玉、神奈川、高知、佐賀、宮崎の私立学校に経営者、教員、自治体の皆様とズーム会議をつづけている。

全国の高校の数は4800、うち公立3500、私立1300。私立高校の経営者は、生徒数が減少する一方、1990年代までに建てた校舎の建替の投資に頭を悩ませている。卒業生の進路選択も、労働者からスタートアップ、フリーランサーに変わり、考える力、行動力、言語化する能力など、大学受験用の知識から、創造力の涵養へと教える重心がシフトしつつある。

大学はどうか。ユニコーン型のベンチャー育成は、東京大学をはじめとして、文部科学省のエッジネクストによって強化されているが、文理融合が課題となっている。高知大学の地域協働学部や宮崎大学の地域資源創成学部のように、地域の内発的成長のために設置された文系の学部があり、これからの活躍が期待されている。一例が、宮崎大学土屋有先生が中心になっているビジネスデザイン、資金調達からエグジットまでの発表会。エグジットを持たない非上場のままの中小企業育成にも取り組んでいる。

ステイホーム、ステイローカルが増えていくであろう日本の2020年代に、福祉、健康、教育、環境などの分野で、このようなイノベーションや起業が増えることは、住民はもとより自治体行政の立場から見てもありがたいことではないか。ご意見を聞かせていただいた皆様のご発展と、大勢の方々が事業に成功することを期待している。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(27)「旅のひと」

2020.9.4

「岩瀬の街並みを歩きませんか」とお声がけいただいて半年。地元のお二人からご懇切なご案内をいただいた。北前船が最も繁栄した明治20年代、北前船商人の財産は全国長者番付の高位に入るほどだった。富山市岩瀬地区はそのひとつ。

内蔵と町家が残ри、そこにイタリアン、ビヤホール、ガラス細工、漆器など一流のプロが、古い民家を購入し、職住一体の良い仕事をされている。地域振興のお手本、いやそれ以上の活力と魅力を感じる。仕掛け人は、作り酒屋のご当主榎田隆一郎さん。フランス、イタリア、チェコなどヨーロッパの文化と歴史の文脈を意識したまちづくりをされている。

同じ富山県南西部には、町村合併で市になった南砺市がある。田中幹夫市長の出身は、世界遺産五箇山の一角利賀地区。そこに二つの資産がある。ひとつは、鈴木忠志さん率いる劇団 SCOT と利賀芸術公園。もうひとつは、蕎麦の郷利賀村が姉妹提携した蕎麦の原点ネパール王国ツクチェ村の名僧サシ・ドージ氏が描いた両界曼荼羅を所蔵する瞑想の郷という公的施設だ。2箇所とも独特の価値があり、内外の訪問客があり続けるだろう。瞑想の郷は竹下内閣のふるさと交付金を村長が活用した好事例。いまでは転入者が多く、区長を務める方もあると田中市長は目を細める。

富山では、外来者は居住を始めてからも「旅のひと」と呼ばれる。旅のひとと地のひとの絆が花開き実を結ぶ姿はなんとも美しい。地方創生の物語は集落の数だけある。故郷の物語に銘々に関わる時代になっているのかもしれない。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(28)「限界集落と団地の自治」(前編)

2020.10.2

いわゆる「増田レポート」は、2014年5月に発表され消滅可能性都市、限界集落の衝撃的なデータを核に地方創生の必要性を説いた。2040年までに、20歳から39歳までの女性が半分以上になる自治体は869にのぼり、集落居住者の半数以上が65歳以上の高齢者の限界集落が増えているという。

現状はどうか。例えば、熊本県の日田市は平成の合併を経て市政を敷いているが、人口減少は著しく集落のほとんどが居住者の半数以上が70歳以上だという。

コロナ禍の中で三大都市圏からの転出者が転入者を上回っている。7月に統計開始から初めて東京圏が転出超過となり、8月は三大都市圏全てが転出超過となった。なにが起きているのか。

限界集落と言えば、島根県隠岐島の海士町が有名だが、長野県の飯田市も先進地域の一つだ。長野県飯田市は、町と町が合併して市政となり、それを核に15もの村が次々に合併した特別な自治体である。飯田市の市政から私たちが学ぶことはできないか。そう思って、飯田市役所で永年まちづくりに邁進し、和歌山県高野町副町長を務めた高橋寛治先輩を訪ね、限界集落の最新事情を伺った。

飯田市が誇りとするのが各旧村に置かれている自治振興センターだ。名のとおり住民自治を振興して、住民でできることは自分たちで解決しようとする。センターの職員は皆さん積極的、行動的な人柄だが、あえて助言までにとどめて、集落の住民が未来を自分ごととして、自分達のお金を使って問題を解決する価値観が育っている。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(29)「限界集落と団地の自治」(中編)

2020.11.6

「文明としてのイエ社会」という名著があった。戦後日本の集落が欧米型に近づく中、地縁血縁がどう変化していくかが主題だ。

飯田市の限界集落には地縁血縁が息づいている。平均標高700mの阿智村清内路(セイナイジ)集落は、230世帯、高齢化率41%の限界集落だが都市圏からのIターンで人口減少に歯止めがかかる。年に一回の花火が愛郷心を育む。初心者が危険な火薬を扱い、尺玉を打ち上げれば集落の中堅となる。女性や子供も作業に参加して緊張感みなぎる時間と和気藹々とした時間を共に過ごす。地元出身の自治振興センター主査は、住民の空気をつかんで自治をさらに育む。そんな飯田市にも、となりはだれという集落がある。学校を卒業して市の中心部に勤め、居宅を建売団地に求めた人々の集落だ。通った学校が違い、職業が違い、生活リズムが異なり顔を合わす機会も少ない。団地集落では、都会のベッドタウンや集合住宅と同じく自治を育むことが難しい。担当する自治振興センターの女性所長の靴が磨り減る実践を拝見してその熱意に頭が下がった。

北海道更別村は、1300世帯、高齢化率31%、100ヘクタール以上の耕作をする農家もある農業地帯だ。お会いした農家は親子三人で徹底した機械化、情報化、国際化された畑作を営む。数千万円の機械があり、費用も嵩む。たゆまぬイノベーションで生き抜いてきた。近所同士の情報交換、助け合いは家族ぐるみ、世代を越えて行われ、2040年に向けて住民自治の模範に思えた。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(30)「限界集落と団地の自治」(後編)

2020.12.4

庄内藩は、江戸城が無血開城した時の江戸取締役で会津藩と並ぶ徳川幕府が重用した藩であり、その経済的基礎は、庄内米、紅花などの最上川流域の園芸作物だ。明治維新で困窮した士族は、士族女子を富岡製糸場に派遣して工女に育て、鶴岡シルクを産業化した。ドレスなど洋服地に特化して他の産地と競合しない配慮をした。独立の気概は城下の風景に色濃く残っている。

同じ雪国の新潟県十日町市。積雪は1メートルを超え山間部では二ヶ月以上家に籠る生活になる。市役所が「大地の芸術祭」を計画した20年前、地元には強い反対があった。自然と文化を生かし、関係人口を増やして地域を活性化する必要があるのか。農業を基礎として居住者の力で粘り強く地域を守るのか。11の町村が合併して十日町市になったが、山間部の棚田米や特産品の品質と多様性には目を見張る。裏山の材木を伐採して自宅を建て合ってきた精神風土の背景には冬の厳しさがある。

物心ついた時からSNSを使う世代は10歳になる。興味に応じて世界で友人、仲間を作る。知りたいことは自宅で学ぶ。都会の住宅団地は団地の自治に苦労したが、SNSネイティブ世代は、シェアハウス、いくつかの部活動を通じ、場所本位、事柄本位のコミュニティを澆漑と暮らすだろう。

地縁を基礎とする限界集落が息を吹き返すのか。限界集落のおとなはもちろん、地元の中高校生、地域おこし協力隊をはじめ集落近辺に移住する若い世代とのやりとりと行動がその鍵を握っている。

(中小企業基盤整備機構シニアリサーチャー 岸本吉生)

HOME

(31) 自然から学ぶ智慧はおとしもの

2021.1.13

伊予平野で麦の作付けをして新年を迎える牧秀宣さん。青年時代にアメリカに農業留学をした牧さんは、途上国の職員や全国から集まる若者に自然の智慧が詰まった農業を教える。日本人が気づいて守ってきた智慧を日本人はどこかで落としてしまったという。

檜の木から無煙の備長炭ができるのをご存知だろうか。牧さんは、里山を針葉樹にしたから薪だの木材チップという話になるが、檜の森に戻せば根が横に這うから植林しなくても炭の原料が簡単に取られ続ける。副産物の木酢液は、人はもとより、栽培植物の健康にも役立つという。山村が地下資源から独立するのに役立つ。

化石燃料、鉱物資源と技術を強みとする製造産業は、都市の生活環境、採掘地域の生態系にどのような負荷を与えるかわからない。それを価格に織り込む方法論はかねてから研究されているが、ライフ・サイクル・アセスメント、環境規制の域は出ていない。問題は産業側にあるとはいえない。

生活者がどのようなライフスタイルを求めるのか。地域おこし協力隊で長崎県の対馬に来た青年は話してくれた。東京で生まれ育った自分のからだは100%消費者だと思いこの島に来ました。人として生き、何かを生み出したいです。

冷蔵庫を開いて、エレベータのボタンを押して、自動改札を通過して、タブレットを操作して、の都市の生活の先に産業活動はどう連鎖しているのか。お金の循環とともに、産業活動に携わる全ての人の生活が好ましいものになるために何ができるのか。ライフスタイルや哲学的な営みがいよいよ大切になるのが令和という時代ではないか。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(32) 2040年代を考える

2021.2.5

昨夏長野県の飯田市を訪問した。空き家、独居高齢者、獣害など限界集落の問題を解決する秘訣を学ぶためだった。教わった言葉は「住民による自治」。お金だけで解決できないし、行政に任せておいてもダメ。関係者がお金を負担して一番良い方法を選び実行する合意があることに敬服した。集落内の信頼感が全ての基本になっている。

2040年は出生者74万人に対して死亡者168万人、90万人が減少するという。都市圏だけでこの苦境を越えることはできない。20歳から49歳の世代は生まれつきのデジタルっ子。人口は3000万人程度だが、友人やコミュニティを大切にする価値観を持つ。県庁所在地を核に、自然に親しむ集落の暮らしを求めるライフスタイルが一つの憧れとなり都市からの移住者も増えるだろう。農地も店舗もなく、フリーランサーで年収200万円以下であっても、食費は安いし家賃もいらない。労働者の35%を占めるアメリカと比べれば1000万人以上増えてもおかしくない。

都市圏以外の就業を見ると、健康医療、教育に従事する方の数が目を引く。高齢者への対応、通学困難な過疎地の教育、異なる文化とのビジネスなど、これらの分野に、顔の見える地域内サービス、新しい価値を提供するサービスなど若い世代の発想と起業が望ましい。その発展には、中高生時代からの部活動などによる動機づけと、融資と並んで創業時の出資が重要となる。共同組織金融がその役割を果たせるよう、経営基盤を強化する方法がないものだろうか。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(33) 常若（とこわか）産業宣言

2021.3.5

4世紀から多数の遺品が残る福岡県宗像大社。数万点の国宝は海の正倉院と呼ばれ、17年に世界遺産に指定された。古代の日本が列島外との通商交流をした当時の外航港湾として重要な役割を果たしていただろう。その宗像の地で、国際環境会議が毎年開かれている。海洋プラスチックや海水の温暖化をはじめ、海の環境問題への地球各地の取り組みを国の内外に発信する貴重な場となり、その理念となる常若（とこわか）をキーワードに多様な参加者が毎年集まる。昨年は初めてのオンライン開催となり、アーカイブも作られている。

登壇者は会場に集まり、いくつかの意見交換を行った。

その1つが日本のものづくりの心と技だ。4人の中小企業経営者から、土地に優しい農業、石油をはじめ地下資源のリサイクルなど22世紀につながる事業のビジョンが紹介された後、宮大工の小川三夫さん、写真家のE・ブラウンさんのお話から日本の文化や自然観にかなった産業の形を「常若産業」として定義してみることもなった。常若とは、伊勢の遷宮や動物の身体のように組織は入れ替わりながら、いのちを若々しく繰り返すという意味。開発とかイノベーションを強調するのではなく、平安な日々を繰り返すことを強調する意味合いがある。

経済産業分野のほかのセッションの内容も合わせて「常若産業宣言」（本文は第7回宗像国際環境会議HPを参照）が発表された。産業に携わる者は、物と心は一如とわきまえて3000年後の地球に思いを寄せる。四季の恵みと災害と生きてきた日本人の文化としての産業活動には、SDGsを超える長期的な視野の理念が宿っている。

（中小企業基盤整備機構 岸本吉生）

HOME

(34) 離島に残る愛郷心

2021.4.2

九州沖縄地方には離島が多い。なかでも長崎県は72島に17万人が住む。五島列島の奈留島は、高校の女子生徒の投書に応じて松任谷由美が「瞳を閉じて」を作詞作曲し、同校の愛唱歌としてプレゼントしたことで有名になった。遠いところに行った友達に潮騒の音が届くように、手紙を入れたガラスびんを持って沖まで船を出そう。中高生が離島を出るときの寂しさはひとしおだろう。

沖縄県にも37の有人離島があり、津堅島もそのひとつ。南風原港から船で30分と那覇空港からも近く、高度に整備された圃場が広がり、沿岸漁業も盛んだ。同島出身の実業家が後輩の卒業生に宛てた「就学決意の碑」には父母の恩を忘れず故郷に錦を飾るまでがんばれ、という歌が刻まれている。

島で生まれた子供たちは島を出ていても市民だ、と語るのは熊本県の離島、天草市の故中村五木市長だ。8万人余りの人口は毎年1000人程度減少しており、進学のために島を離れる子供たちがいつでも戻れるようにしていきたいという。

大企業が三大都市圏に大量の新卒を求め、地方に事業所を構える時代ではない。都会で切磋琢磨して腕を磨いたら、地元に戻って活躍することを望む20代は多いし、首都圏に進学する人数も減っている。収入として十分なりモートワークがこれらの離島に定着できれば、過疎地や都市部周辺地を含めて私たちの生活の質は確実に上がるだろう。職員の生活の質に目配りする企業経営が望まれている。そのための中高教育の内容も問われる。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(35) 職業高校から故郷を思う

2021.5.14

広島商業や日田林工、熊本工業、鹿児島実業、沖縄水産をはじめ職業高校はあまたあるが、その多くが普通高校に併合され、単独で残るのは579と少数派となった。分野別に見ると、農業426、工業781、商業771と比べて情報26、水産（川と海を預かる）62、福祉98はバランスを欠く印象を受ける。工業には国立の高専があるが、他の分野はこれからだ。また、教育内容に目を向けても、ITを前面に出し写真や動画、音声といったメディア運用力を重視することもある必要ではないかを感じる。

先日、郷土教育という言葉に出会った。104認定されている日本遺産を題材に学び、成果を披露する場を用意することで、生徒も市民も郷土に共感し、誇りを感じ、一体感を培うというのだ。八王子市立浅川小学校の6年生は、高尾山に学ぶプログラムを開始した。1人1台のGoogle Chromebookを活用して3人のチームが静止画を撮り、取材し、セリフ付きのポスターを制作して校外で披露するのである。GIGA教育と専門家の支援のおかげで、このような機会が得られることは素晴らしく、共感性、創意工夫、社会との接点が財産となる。

職業科の生徒さんたちの多くは、郷里のために役に立つ職業に就こうという皆さんだ。地域のお年寄りや地元企業の方々とのコミュニケーションを通じて郷土を愛し、他地域の生徒とも切磋琢磨していくことで、都会か田舎か、偏差値は、といった物差しでなく、故郷で錦を飾る仲間が脈々と生まれ続ける。そうした教育が動き出していることは心強い。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(36) X R 総合展

2021.6.2

仮想現実 (Virtual Reality) は、いまや拡張現実 (Augmented Reality)、複合現実 (Mixed Reality) と合わせて X R と呼ばれ、現実とコンピュータ上の三次元空間を重ね合わせる各種のサービスが始まっている。関連する企業が多数出展する東京ビッグサイトでの展示会を訪問してみた。

建築の分野では、住宅の見取り図から部屋の立体像を描いたり、壁紙の色を変えたりテーブルやソファを置いたりできる。新築の施主は何通りも試すのに重宝する。A E D の装置を使う実習も X R だ。三次元モニターの眼鏡を装着すれば、目の前に人の身体が現れ指示に従って心臓マッサージを練習できる。X R では、空中遊泳など現実には経験することが難しいものほどありがたみを感じられる。

5 G の導入に伴い、家庭で X R のヘッドセットを使えば、各々が好きな動画を楽しめる。三次元空間を観る端末はすでに販売されており、お父さんはスポーツ、お母さんはドラマ、息子は S F という今の光景が当たり前になる。教育や医療の世界でも、動画や音声の品質が格段に上がり、オンラインの活用が一気にすすむだろう。

総合展には、デザイン、イラスト、書道、絵本作家などのクリエイターも多数参加されていた。広告物も、印刷物から、クリエイターとコラボした三次元のコンテンツに変わっていくだろう。自動翻訳も相まって外国の作品も容易に楽しめるようになる。紙から三次元デバイスにメディアが変わることで、いよいよ立体動画の時代に入っていくと実感した。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(37) デジタル・マーケティングはどこに向かうのか

2021.7.1

D Xがバズワードになっているが、その底流はデジタル・マーケティングではないか。2000 年前後にバズワードだったビジネスモデルや電子商取引は、すっかり社会に浸透したが、中高等教育で触れる機会があったのはごく一部の人たちだ。おすすめの一冊がある。牧田幸裕著の「デジタル・マーケティングの教科書（2017 年）」だ。

1980 年代までのマーケティングが広告代理店、ビジネス・コンサルタント会社、大手企業が中心だったのに対して、デジタル・マーケティングではベンチャー企業が参入し、S N S が普及した今日、個人が大きな役割を果たす。デジタル・コンサルティング会社やデザイン・コンサルティング会社が活躍している。

デジタル・マーケティングの特長は、企業経営が顧客の個人データに立脚することだ。オンライン取引でも対面取引でも、購買前、購買、購買後の顧客の行動がデータとなり顧客経験の向上に活かされる。限られたデータから推測するペルソナ仮説やセグメント戦略とは根本的に違う。顧客ではなく同居する家族や友人のようだ。決済データや物流データとの紐付けも大事になり、オムニ・チャネルやキャッシュレスが流行しているのも当然だ。

牧田さんは、デジタル・コンサルティング会社の次に影響力を持つ業種はデータ提供業だという。その活用がビッグデータと人工知能に基づく推測型になるのか、個人と紐づいた寄り添い方になるのか、あるいは複合して社会全体がデータを共有する方向に向かうのか。いよいよ、変化の大きな時代に入るのだろう。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(38) ネイティブな発音から始める英語

2021.8.6

55 歳の時、アメリカ留学後の勤務以来 23 年ぶりに英語で交渉する仕事に携わることになった。発音だけを個人教授してもらうことにした。ネット検索して出会った阿久澤純子先生は素晴らしい先生だった。

松澤喜好氏の英語耳という教材を使って母音と子音を一から手ほどきしていただいた。その次はスティーブ・ジョブズがスタンフォード大学の卒業式で行ったスピーチのオウム返しだ。リズムとアクセントとイントネーションを真似るのである。その段階で自分ができないことがいくつもあることに気づき、「英語リスニングのお医者さん(西蔭浩子)」で弱点を確認してその部分を集中してご指導いただいた。

成果は数カ月後に現れた。マライア・キャリーの歌詞が聞こえたり英語の家族ドラマの会話がわかるのだ。リスニングは耳の慣れだと思いがちだが、話せない音は聞こえにくい。聞こえない音を口に出して何回も練習することで耳と口が連動して英語脳ができてゆく。日本の中高生にはこの喜びを体験してほしいと思う。

自然に聞こえ始めたら、聞くだけで語彙力や理解力が自然に上がるし、話すのが楽しくなる。日本人は発音は大事じゃないという俗説があるがそうではないと思う。標準語で話すことは聴く力や理解する力の源泉になる。

経済産業省ではポペノさんというニューヨーク在住の講師のオンライン教室 (<https://www.popenoemethod.com/japanese.html>) を推奨している。母音と子音、アクセントとイントネーションを集中して学ぶものだ。発音から入る学習法が普及して、きれいな英語を楽しむ方が増えることを願っている。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

(39) デジタル化で変わる会社と仕事⑤

2021.9.3

コロナ禍で職場内外のコミュニケーションがオンラインで概ね可能だとわかり、そのうえにどのような花が開くかに関心を寄せている。

マーケティングの分野では、この10年の間にP・コトラの教科書が2回も書き換えられた。Marketing 3.0 と 4.0 である。前者はネット社会のビジネスの要点は精神的価値の創造にあると述べ、後者はSNSの普及により顧客の発信力が企業の発信力を凌駕し、企業は顧客に寄り添うことが一層求められていると述べる。DXのひとつの側面だろう。

ネット社会は、計算機システムを基盤にオペレーティングシステム、ミドルウェア、アプリケーションの重層構造だ。ホストシステムとは考え方が違う。多くの会社が自前のシステムを捨てて汎用アプリに移行している。社内の秘密を守ることも大切だが、日々世間と情報を同期することがはるかに重要になっている。自営業者や小規模企業零よりも大手企業が不自由になっているのだろうか。

西山圭太さんは「DXの思考法（2021、文藝春秋）」で Digital Transformation は、Industrial Transformation であり Corporate Transformation が必然だと述べるが、技術論に基づくだけに強い説得力がある。「日本の企業のIT化が遅れているのはシステムが会社ごとだからだと思うよ。一番売れているアプリを買って会社の内規や組織を変えるのが今風なんだと思うよ。」と先輩からアドバイスされた日のことを思い出す。

（中小企業基盤整備機構 岸本吉生）

HOME

(40) デジタル化で変わる会社と仕事⑤

2021.10.1

「ウェブ時代をゆく」はリーマン・ショック前に買い求めたがいま読み返しても透徹した世界観に敬服する。著者の梅田望夫さんは当時新しい職業だったラジオドラマ作家の父を持ち、未来を創造するには知的で明るい大人が増えなければならないと語る。インターネットは、個人や小さな組織に親和性が高い、善良な言動を奨励する技術である、表現や社会貢献を万人に開放する、など五つの利点があり善良な知的生産者を惹きつけるだろうと予想した。

ウィキペディア、T i k T o kのような群衆の叡智ともいう現象は、個と個の良心のふれあいが原動力だ。組織のリーダーが群衆の叡智に歓迎されるためには、世間への信頼を貫き業績は非営利で構わないという姿勢が求められるという。外部からの投資を受けず、上場もM&Aも考えず、好きなことをやりたいように続ける経営者は、資本主義社会の勝者ではないかも知れないが、その生き方に共感するコミュニティと共創し共栄している。ネット空間は、能動的で創造的な人々にとって「人生を埋める」に値する場所なのだ。

そうした生き方は20年代の職業にどう影響するのだろうか。正社員とフリーランサーとの優劣は一概に言えなくなった。専門性や趣味を磨けば飯を食っていける。加えて「志向性の共同体」が増えるのかもしれない。スポーツ、将棋・囲碁、演劇・舞踏といったリアル時代からある職業に加えて、ウェブ上で数多の新しい職業が誕生するのだろう。上場やM&Aという成長志向の組織ではなく息の長いフリーランサーや小規模事業者として。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(41) 山水郷

2021.11.5

山川草木悉皆成仏。

平安時代から代々親しんできた言葉だ。就職後仕事ばかりしていた自分には実感が湧かない言葉だった。安田喜憲先生から、未来は懐かしい過去にある、東京を離れて勉強会をしましょう、とお声がけいただき、京都大枝山の国際日本文化研究センター、気仙沼、水月湖などへの訪問が始まった。里山里海、陽射し、川海の波、鳥や虫の声、山降ろしと潮風が自然観と宇宙観を与えてくれた。自然の慈愛は心身を蘇らせてくれる。母なる自然を慈しむ言葉が冒頭の句だと思う。

武庫の山なみ背に負いて茅渟の浦風穏やかに。ものみな光る学び舎の。

今も誦じている小学校の校歌だ。作者は、山と海のありがたさと郷土の誇りを子供たちに伝えたかったのだろう。移住する若者が古民家を好むのは、移住先の方々と打ち解けていくなかで、古民家に住むことが集落の一員になるという気概を持つからではないか。山水郷を愛する暮らしが若い世代から始まっていることは心強い。03年に制定された環境教育等促進法を真摯に実行する学校の先生方の取り組みに感謝したい。

都市に山水郷を残す発想は各地にある。日比谷公園、兼六園、セントラルパークをはじめ、統治者は人間と自然との兼ね合いを強く意識していた。「子どもたちに大人の考えを強制してはならない。しかし、体験し経験することは強制すべきである。」は環境教育を提唱したクルト・ハーンという言葉だが、首都圏に住む大人が山水郷を体験経験することが社会を変えていくのだろう。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(42) 西瀬戸内海の離島半島

2021.12.3

瀬戸内海は鞆の浦を境に東西に分かれ、愛媛県は西瀬戸内海だ。70市町村が20市町に集約された愛媛県には36の有人離島があり3万人が暮らしている。

上島町は4町が合併して人口7000人、役場がある弓削島には国立弓削商船高専、県立弓削高校がある。弓削高校はゆめみらい塾プロジェクトを推進し、他県からの移住者と高校の先生が協力して授業及び授業外の両面で生徒を応援している。国立高専には県外からの留学の伝統があり、島民が高専の生徒を応援する歴史がある。

佐多岬半島は40キロの長さで先端の旧三崎町地域は松山からは離島以上に遠い。旧三崎町では、住民の発意で70年前にできた三崎高校の存続に奮闘中だ。文化祭では、県内県外からの留学生と地元の生徒が一体となって合唱、伝統芸能、将来への抱負を披露した。寄宿舎に住む留学生は、アート、福祉、ビジネスとそれぞれの希望のために精力的に毎日を送っている。

愛媛県はGIGA高校をすでに実施し、キャリアデザインや起業教育を取り入れる先進県だ。弓削高校、三崎高校の在校生それぞれの希望を叶えるためには、学校での教えだけでは足りないと感じる。進路に関係する社会人とコワーキングスペースやSNSでつながれば、地域のデジタル化の担い手と起業家人材の育成が加速しそうだ。市町村のDXはこの分野でも進んでいくことが期待されるし、信用金庫がこの動きに加われば、実際の起業が促進されるのではないか。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(43) 常若を支える活動

2022.1.7

伊勢神宮の遷宮は常若と呼ばれる。部分が入れ替わりながらいのちが受け継がれる。人間中心、産業優先の問題が問われて久しいが、資本主義はお金の成長を優先しその本質は刹那的だ。これからの日本で生態系に貢献する常若の仕事はどのような仕事だろうか。

農山漁村の営みは自然や風土とかかわる生態系の土台だ。ただしく命に感謝して、土地や沿岸を今以上に大切に管理しなければならない。

教育と文化を常若の思想で棚卸しするのはどうだろう。やりたいことを見定めて準備する期間だとすれば、学校で履修する内容に自由裁量が増えて良い。中高の6年間、哲学、郷土史、身体感覚など科学や合理性と別次元の経験をすることが、世間に奉仕する力、逆境を乗り越える精神力の糧となる。

社会の担い手としての教育も欠かせない。自分の役割を見出し他人とともに働く小中学校の特別活動は楽しい思い出になる。特別活動への参加は、大人から子供への最高の贈り物ではないか。

文化活動はどうだろう。喜び、悲しみ、勇気、親切。五感でとらえられないものへの共感は魂を元気にする源となる。高度成長時代には歌謡曲や映画など大衆文化が花開いたが、2020年代にはどのような文化が生まれるのか。リモートで生まれた隙間の時間が、文化活動に生かされることを期待したい。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

(44) 関係の重要性を学ぶ

2022.2.4

離島半島農産漁村の明るい将来を考えていると、集落の共同体としての生活と、首都圏の個人主体のライフスタイルとがどのように折り合っていくのかが最も気になる点のひとつになる。

明治以降の変化のなかで失われていった習俗や価値観については、柳田國男、宮本常一をはじめ多くの作品から学ぶことができるが、かたやグローバル、イノベーションを追い求め、かたや農のある暮らし、支えある暮らしを求めるZ世代の拠り所になる思想やライフスタイルはどのようなものだろうか。

そんなことを考えている時に、フランスの量子物理学者のカルロ・ロヴェッリの「世界は関係でできている」に出会った。量子物理学者の間では物質が根源という世界観は正しくないことが明らかになった。物質は素粒子が関係性を持つことから形作られる。片方と片方の関係を確かめるには3番目の視点がないといけない。属性というものの見方から関係性というものの見方へと転換せざるを得ないという。宇宙は連続的に関係しており、それを対象物に仕分けているのは人為的な作業に過ぎないとも。

個人がバラバラになる資本主義の将来に警鐘をならし、関係に注目して社会の明日を考える哲学者に内山節先生がいる。「新しい共同体の思想とは」は平易な文体で私たちが回帰する伝統とは何かを語っている。量子論を読みながら、内山哲学から学びたいという気持ちが高まっている。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(45) 持続可能なキャリア

2022.3.4

高校生のキャリア・デザインを考える仕事をしている自分にとって、退職後の第二の人生はわがことだ。そんな私に大学の同級生北村雅昭さんから新著「持続可能なキャリア」を送っていただいた。

ニューキャリア論が1990年代からアメリカで盛んになった。キャリア形成は企業の人事に任せないで個人の責任でやる時代という考え方だ。2010年代には今度はヨーロッパの女性研究者を中心に、家庭、個人、組織の共同責任でキャリア形成することの意義を探究する流れが加わった。これを「持続可能なキャリア」という。未来の自己を明確に描くという作業は、いつか到来する転機、思わぬ事態で仕事を変えざるを得ない時に役立つという。未来の自己を描く前提となる自己を分析するには、キャリア・アンカーツールもある。

幸福な職業生活とは何かは一人一人異なるのだから、組織と個人の共同責任でキャリアを編み出すにはそれが何なのかを平素から個人が自問自答し、自分が理想とするキャリアビジョンを組織と共有することが望ましい。定年後の年数が長い上に、勤め先を取り巻く環境変化が早い今日、主観的な価値判断を伴ったキャリア・デザインが必須になっている。

長い目でキャリアを考えておく場として、大学のリカレント教育が提供できるものがいろいろある。経営学に加え、宗教、文化、幸福論、心理学など大学ならではの教員資源を組み合わせ、20代から70代まで参加者のキャリア・デザインと伴走することができたらと思う。持続可能なキャリアをライフワークに選んだ北村先生が、その分野でも活躍されることを期待している。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(46) デザインに関するコンサルティング

2022.3.31

日本デザインコンサルタント協会（J D C A）では、会員が社会貢献として何ができるか昨年から話し合っている。発起人は研究学園都市つくばで活躍する佐山剛勇さんだ。デザインという多義的な概念を出発点に、若い世代のアイデアを出発点にして「デザインに関するコンサルティング」を実践していくという方向が浮かんでいる。益田文和さんは山口県宇部市の山のなかに移住して、中小企業、公共機関と連携して地域の課題解決、デザインによる地域振興に取り組んでいる。その経験から、デザインそのものに加え、デザインに関するかもしれない幅広いコンサルティングが重要だと教えてくださる。

私の入会を勧めてくださった谷口正和先生は、30年にわたり世界の都市を訪れ、社会の変化をキーワードに絞り込み、多くの著書を世に問うてきた。文化と芸術なくして経済と経営はなりたたない。自らのミッションを見定め、他人の幸せに貢献するビジネスに女神が微笑むという認識が拡散する時代だと問いかける。ブランド戦略の第一人者中西元男先生もデザインは文化から経済を豊かにする意義があると説かれる。

平田智彦さんはアメリカのデザイン事務所Z I B Aから帰国して独立。「経験豊富な世代と高校生・大学生との交流が双方にやる気と気づきを生む、無意識に置いている前提条件をリフレームしてみたい」と社会貢献を熱く語る。

第一線のデザイン・コンサルタントとデジタル・ネイティブの皆さんとの協業がどんな花を咲かせるのか楽しみだ。

（中小企業基盤整備機構 岸本吉生）

HOME

(47) W T T Hを望む

2022.5.13

北陸新幹線が開通して便利になった石川県は、19 市町合わせて 47 万世帯 113 万人だ。その奥能登地域 4 市町は、面積こそ 27%を占めるが人口は 5%（2.5 万世帯、6 万人）の過疎地域である。日本一の漆芸産地輪島市、奥能登国際芸術祭の開催地珠洲市、集落ごとにキリコ祭りが残る能登町など自然と文化に溢れ、移住定住支援が積極的に行われている。

複数の行政関係者にお会いした時に、通信環境の整備が課題だと教えられた。全国では 05 年までに光ファイバーの敷設が本格的に進んだが、奥能登地域では今も整備が遅れている。回線使用量が低いことが主な理由だろうが看過できない状況だ。20 年前の政府の標語は Fiber To The Home（F T T H）だったが、4G の登場もあって過疎地域は今も無線頼りだ。YouTube、Instagram など端末受発信が高い料金により制限されている。観光客が Wi-Fi 環境を望むのはご承知の通りだが住民はそれ以上に同じことを望んでいる。飲食、宿泊サービスはもとより域内の子どもたちや事業者が不便をかこっている。

昭和のころ、道路整備が地域の夢だったように Wi-Fi To The Home（W T T H）は令和の日本の基礎インフラだ。デジタル田園都市構想では 30 年をめどに W T T Hが進むようだが、25 年を目標にして、行政と N T T の協力で離島半島農山漁村の夢がかなう仕組みができることを願っている。

（中小企業基盤整備機構 岸本吉生）

HOME

(48) 四国の右下

2022.6.3

徳島県阿南市から高知県室戸市までの二市五町（美波町、那賀町、牟岐町、海陽町、東洋町）は四国の右下にある。（<https://www.minamishikoku.org/?history=sample-history3>）

この地域は、古来、黒潮で到来した海洋民が大阪湾、瀬戸内海に入る際に立ち寄る要所だ。第12代景行天皇の子鷲住王は旧穴喰町に先進地域を築いた。戦国時代から江戸時代には船と木材を瀬戸内に供給していた。そのためか他県からの移住者が多く開放的な文化が残る。サーフィンとウミガメの魅力に導かれた移住者が、地元と織りなす営みには都会のような爽やかさと明るさがある。

移住促進政策が成功するには、人間関係の基礎となる文化を発信しておくことが欠かせない。年中行事への参加、自立と助け合いの兼ね合い、無償の奉仕活動が地域ごとに違うからだ。海陽町は高齢者の自殺が少ないことで有名だ。岡檀（まゆみ）さんは「生き心地の良い町（岡檀著、講談社）」で5つの要因を挙げている。なかでも、年長者が威張らない。困り事は隣近所にすぐ打ち明ける。この2つは明るい組織に共通する美点だ。

永原レキさんは、穴喰中学校を卒業、大阪に移り住んだ後帰郷してこの地域の活性化に全力投球している。サーフィン、藍染、人の交流で高齢者、同世代ともに愛されている。ムラの文化が嫌で都会に出る人もいれば逆もある。温暖な気候、美しい山川海、食、朗らかな人情にご興味にある方にお勧めしたい。

（中小企業基盤整備機構 岸本吉生）

HOME

(49) 動かない希望の星

2022.7.1

スタートアップの経営者は、顧客が喜んでお金を払う何かを生み出す。それは苦勞を重ねても届けたい何かだろう。大学で専門教育を受ける前に、ゼロからイチを生む川上のマーケティングを高校生と共に学んでみたい。そう思ったのは今年の夏だ。その思いを県立富山商業高校の安田隆教頭先生に受け止めていただいた。同校は今年度の入学生からマーケティングを必修とし履修内容に川上のマーケティングを加えることになった。

5月27日、1年3組4組の生徒さんとは一緒にした。最初にお伝えしたことは、人生の目的は1人ひとり違うのだから今を生きる目標と並んで「動かない希望の星」を見つけるのも大切だということ。もうひとつは仕事と稼ぎの違い。お母さんがお弁当を用意する、掃除をするように、お金をもらわないでもやりたくなる仕事は誰にもある。お金をもらうための「稼ぎの時間」と「仕事の時間」を組み合わせることを意識してほしいということ。3月までの課題は自分の人生の目的をデザインすることだ。デジタル・マーケティング、デザイン思考を組み合わせでデザインし、級友と磨き、400字にまとめて発表する。

ゼロからイチのマーケティングをできるようになりたい。デジタル・マーケティングをやってみたい。動かない希望の星を見つけない。そうした心強い感想をいくつもいただいた。高校を卒業して社会に出ると、能力・業績、資格、肩書きなど他者から物差しを当てられることも多い。富山商業の生徒さんが「動かない希望の星」が見つかるよう、生徒さんと一緒に学びたい。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(50) 火と水の交わり 古老の言葉

2022.8.1

生まれた場所に高校がない地域は多い。なかでも離島では 15 の春を迎えた中学生は故郷を離れて高校生活を始める。親と育つ間に、小中学校でキャリアをデザインして、希望の星を追い求める人生のきっかけを得ることができないだろうか。そう思って沖縄を訪ねた。

沖縄県の有人離島は 37。そのうち 26 は人口が 1 0 0 0 人に満たない。その 1 つ津堅島の港には修学決意の石碑がある。

此の麗しき津堅島に 父よ安かれ母も待て

学びの業の成る時に 錦飾りて帰る迄

津堅小中学校の宮城渉先生にお話を伺った。I C T 教育の第一人者でいらっしゃる。島民 4 0 0 人生徒数 13 人で最小最高の学校づくりを目指している。その魅力に移住希望者が見学を訪れる。全国各地の離島の小中学校がオンラインで結ばれ、ときおり実際に集まることで離島の暮らしのすばらしさを確かめ合うことができる時代になった。

沖縄本島をめぐり気が付いたことがある。穏やかな青い海原に人間が浮かんでいる。人は海に生かされている。海の彼方や星空と自分が強く結び付いていると感じる。山から川が流れて里で暮らす本土とは見える世界がまったく違う。

お会いした古老に「お母さんは火の神、お父さんは床の間の神を新月の日と満月の日に祈る。火と水は 1 つ。火と水が交わって命が与えられる。月の満ち欠けに生かされる。1 日たりとも先祖の恩、父母の恩を忘れてはいけません。いただいた命を大切に生きるのです。」と教えていただいた。修学決意の碑に刻まれた言葉は、古老が教えてくださったことを今に伝える。人生の大元に父母の交わりがある。世のため人のために生きる元気の源はここにある。古老の言葉が響きます。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

(51) メタバース

2022.9.2

6月29日から3日間、東京ビッグサイトでXR総合展が開催された。3次元仮想空間を提供する技術と、実売されるデバイスやアプリは、昨年と比較すると大きく進展したと実感する。

技術が普及する時に、消費者、企業、その後に民生公共という傾向があるそうだ。炭素繊維がゴルフクラブやテニスラケットの利用から始まり、航空機や自動車に広がったのはその一例だ。Fortnite というオンラインで誰でも参加できる3次元仮想空間のゲームが17年に発売された。19年には中学生高校生が熱中するに至った。開発したEpic Game社は、ゲーム制作エンジンを公開しており、誰でも3次元仮想空間を作る環境の提供者でもある。ゲーム、エンターテインメントの分野でも、プロのクリエイターが作品を制作するのと並んで、中高生が、自分が制作した3次元仮想空間を投稿するだろう。家族がそれぞれにゴーグルをかけて、3次元映像を楽しみ、仕事する日は遠くない。

わたし達が自然やいのちにどう関わるか気になる。ショパン風、ミステル風という風合いを作り出すことをパスティーシュ (pastiche) というが、制作者が、自然や生命をそれぞれの好みでパスティーシュしたら何が起きるのか。世界が同期して孤独な大衆が生まれたのは百年前だ。今から100年はどんな時代になるのか。花鳥風月を愛でる人々が増える時代になることを密かに願っている。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(52) 一生青春

2022.10.7

スタートアップを研究していると、起業した方がどんな将来を求めたのか気になります。ソニーの森田昭夫さん大賀典雄さん、ホンダの本田宗一郎さんは、機械で社会を豊かにされました。愛媛県に違う道を歩む先輩がいます。

若松進一さんは漁師の家に生まれ、宇和島水産高校を卒業後双海町役場に勤めました。地域の振興のために風の又三郎のように働き、教育長で退職されました。その生涯はまさに起業家です。伊予灘に面する海岸は、若松さんのプロデュースで日本一の夕日の名所になりました。伊予灘を見下ろす高台にあるお祖母様の生家は、改装されて「人間牧場」になりました。古典「大学」や二宮尊徳をひもとき、人として何を成すかを学ぶ場所です。入門者には創作した二百を越える説話「夕やけ徒然草」を語り和ませてくださいます。

牧秀宣さんは「百姓」です。何でも自分でします。衣食住から歴史、神仏、自然、教育までコラム連載をお願いしたいくらいたくさんの知恵をお持ちです。若くしてアイダホの大地で修行し、穀物こそ数千年絶えることがないと米麦農場を起業されました。国内外の次世代が学ぶ場所になりました。道後平野ははだか麦が名産です。麦秋はほんとうにきれいです。「麦熟らし」祭では一同が幸せと豊作を祈ります。

前の寅年にお会いして以来、お会いするたびに地域に暮らす誇りと感謝を感じます。教わることばかりです。お二人にふさわしい言葉は「一生青春」です。Z世代がその生き方を受け継げたらと思います。

(中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(53) 泛駕之馬

2022.11.4

泛駕之馬（ほうがのうま）は、主人や周囲の言うことをきかない暴れ馬です。会社にも同級生にも泛駕之馬がいませんか。この言葉には「泛駕之馬こそ役に立つ。将来を見込んで馬を育ててるのが総帥の仕事」という願意があります。ヤクルトとオリックスが2年連続でペナントレースを制しました。高津臣吾監督と中嶋聡監督は泛駕之馬をどのように育成したのでしょうか。

高津監督は野村克也監督の門下生です。高津語録があります。野村野球を継承してスワローズ・ウェイを選手に伝える。70人の選手は同じユニフォームを着る仲間です。喜怒哀楽は素直に出そうと思います。私が好きな言葉は「絶対大丈夫、腹括って行け」。

中嶋聡監督は名将西本幸雄監督、上田利治監督に育てられ29年間捕手を務めました。次のような語録があります。選手にあいつと呼ばれてかまわない。短い言葉で背中を押す。選手を見極めて起用し失敗には目をつむる。しかし「無気力、消極的、自分勝手は厳しく指摘する」。

馬を育てるには3つの方法があるそうです。指南とは進むべき方向を示しエサでそう仕向けることです。調教とは訓練を重ねて規律を持つ馬に育てることです。馴致（じゅんち）とは気づかぬうちに主人の望む馬になるように馬を仕向けることです。選手の夢やロマンを使って仕向けるのでしょうか。

お二人は指南と調教はフロントやコーチに委ね、自らは馴致を施す名将ではないかと感じます。中嶋監督の笑顔よりも高津監督の涙に、両チームの全身全霊の日々への思いを感じました。両チームの選手のような日々が、多くの組織の従業員にも訪れるといいですね。

（ものづくり生命文明機構 岸本吉生）

HOME

(54) 愛南町には愛がある

2022.12.1

愛媛県に赴任した12年前の年末は、最西端の伊方町佐田岬で過ごしました。70あった市町村は加戸知事の政策で20市町に統合されました。南端の4町1村は名前が消えて愛南町になりました。

愛南町は松山空港からも高知空港からも二時間以上かかります。かつては隣の宇和島市から車で8時間かかったそうです。豊かな自然と文化は都会からの移住者を惹きつけています。

海軍の万能飛行機紫電改をご存知でしょうか。紫電とは研ぎ澄まされた剣を振り下ろす一瞬の閃光です。海軍の戦闘機の名前でした。それを改良したのが紫電改です。昭和18年に松山空港に配備され、地元の済美女子学校の生徒さんが紫色のマフラーを一枚ずつ縫い上げて操縦士の命運を祈りました。呉の海軍基地を守るための迎撃隊でした。そのうちの一機が見つかり愛南町の尾根に展示されています。

愛南の海には100種類以上の珊瑚が群生しています。世界でも多様な場所の一つです。潜水服を着て珊瑚の海を歩くことができます。漁業協同組合は4つのせり場があります。日戻り鰹というカツオは鮮度抜群です。脂が乗った戻り鰹は当地でしか食べられません。ゴールデンウィークには河内晩柑が出回ります。日本製グレープフルーツです。ジュースは夏バテに効きます。

山と川と海が分断されずに繋がる場所はまだ残されています。山の落ち葉が生命の源である鉄分を運び川と海の水生植物と水性動物を産み育てます。愛南町には生命を育む循環がある。だからそこにいると愛を感じる。そう感じた訪問でした。

(ものづくり生命文明機構 岸本吉生)

HOME

(55) 他己社会

2023.1.6

還暦を迎える前から人生の目的を探していました。見つけた答えは「他己社会」です。他人と自分の価値は等しいと誰もが思い、世の中のために役に立つ喜びを中心に生きる社会のことです。

タイの生命保険会社の動画をご存じでしょうか。幼い男の子は重い病気の母親のために薬を万引しました。ラーメン屋の店主は事情を察して薬代を払ってやり栄養スープを与えました。男の子は脳外科医になり、30年後に店主を無料で救いました。このビデオを観た高校生の何人かが涙して「困っている人に親切にするような人生を送りたい」と感想を寄せてくれました。

人間には自分の目標を遂げたいという欲求、他人を支配したいという欲求、他人のために尽くしたいという欲求があります。どれも本能から生まれるものです。3つ目の良さは、他人に迷惑をかけることなく世の中の役に立とうというベクトルがあることです。

3つ目の欲求を育てるには「命は自分のものではない。先祖から代々受け継いできたものだ」という自覚が大切になります。宇宙や自然に感謝する心とも言えます。英語では spirituality、日本語では霊性です。世の中のために働くのは大欲と言います。空海は「大欲を持て、自己中心の我は捨てて大欲を育てよ」と促しています。

健康や文化は、民衆が自らの手で守り育ててきたものです。篤志家は稼いだお金を地域を守るために投じてきました。こうした分野で命の炎を輝かせる若い世代を応援する。そのことが残された人生の目的になりました。

(前中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(56) 社会課題を解く研究心

2023.2.3

実務家として生きた私は、56 歳から研究に従事しました。与えられた課題はスタートアップのエコシステムです。アメリカのパロアルト、イスラエルのテルアビブ、インドのバンガロールにおいてものづくりベンチャー企業の経営者にインタビューした結果を基準にして、東京と福岡市のエコシステムを考察しました。顧客が喜んでお金を払うサービスを考える社風が、東京と福岡の最大の伸び代だと感じました。この気づきはその後の研究活動の基礎になりました。成果として取りまとめたのは、限界集落を抱える市町村こそ中高生の教育を通じて、スタートアップを増やし社会が活性化するという内容です。この体験から、独自の視点を変えずに根気強く取り組むことが無から有を生む鍵だと実感しています。

通商産業省に入省してすぐ、気候変動の国際的議論が始まり、政策当局者と研究者が実態把握と対応策を同じ土俵で検討する時代が来ました。民間企業の新しいビジネスについてはいかがでしょうか。スタートアップ企業では、しばしば社内の部署として研究所があります。売り上げのある部署と将来の売り上げを担う部署がつながっています。社外の研究者や実務者とのオープンイノベーションに積極的です。秘密やノウハウを上手に管理して迅速に協働しています。

新しい原理原則やサービスの開発には研究活動が欠かせません。やる気のある職員がはつらつと研究に従事できる社風を持つ企業が増えることを願います。

(前中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(57) 集合的無意識（上）

2023.3.3

井筒俊彦さんの著書にイスラーム生誕があります。氏が考案した意味文節の理論を用いて、表面的に現れている文字や規範としてではなく、意味の内部構造からイスラームとは何かを考察するものです。

人間の表面に現れている言葉や行動の水面下には、言葉にならない無意識があります。深層心理学を体系化したユングは、個人的無意識と集合的無意識を定義しました。個人的無意識は、生まれてから経験したことのうちで意識から抑圧排除された無意識です。集合的無意識は、時代や場所を問わず人種や文化を問わず万人がはじめから共通に持っている内容から生まれる無意識です。私たちが抱く感情や思考は、2つの無意識に影響されているのです。

鳥や魚は群れをなし、先頭が向きを変えたと一斉に同じ動きをします。五感に基づく意識の動きとは思えません。一糸乱れぬ集団の動きを見て鳥肌がたった経験はありませんか。私たちは集合的無意識を刺激されると無条件に感動するのです。私は2月から4月の海辺の夕日、7月から8月の山あいの早朝のせせらぎの音、初霜や初雪、こうした情景に強く惹かれます。懐かしいという言葉はこのような感覚を指すのではないのでしょうか。懐かしさという感覚は、集合的無意識のなせる技ではないかと感じます。

近代が訪れるまで、人は感覚を基軸に生きてきました。狩猟、農作業、盆踊りのような集団行動は、感覚によってまとまりを成していました。機械を相手にするようになって社会規範が変わりました。理性によって感覚を押し殺し、文字と記憶に頼るのが日常になりました。

（前中小企業基盤整備機構 岸本吉生）

HOME

(58) 集合的無意識（中）

2023.4.7

ことばを伝える媒体が音声から活字に変わった明治以降「言葉の一人歩き」が始まりました。教科書や新聞書籍を通じて知識と考え方を標準化する世の中になりました。直観より論理が重んじられ、書かれたものをそのまま理解する風潮が強まりました。

数学は純粹直観という能力を用いて、ないものを形にする創造的な活動だそうです。創造力が今まで以上に求められるいま、数学者の考えを紐解いてみましょう。数学者の岡潔先生は「思いやりの感情がひとの人たるゆえんだ。他人の悲しみがわかる情緒が明日の頭をつくる。懐かしむ何かを共有する心のつながりがあるから、社会のために打算なく善いことができる。物質や知識を偏重すると欲望のままに大人になり、自分を優先する人間ができてしまう」と説いています。

他人の悲しみがわかるという感情は自然に育つものではないでしょう。懐かしいという感情を育む体験を通じて他人を思いやる慈悲心、正義感、道義心が培われてきたのでしょう。学習指導要領はその重要性を明記しています。小学校では「特別活動」という時間が授業全体の30%以上用意され、他人とともに色々な経験をし仲間と合意を形成することが奨励されています。

（前中小企業基盤整備機構 岸本吉生）

(59) 集合的無意識（下）

2023.6.2

赤ちゃんは危険を回避したり自分の要求を実現する動きをします。危険を察知して泣き止む。他人を喜ばせる笑顔を振りまく。天真爛漫さは、自分の要求を実現する本能の働きです。

私たちはその天真爛漫さに上書きをして生きています。学校やスポーツなど、集団で同じ行動を繰り返すと、その経験が潜在意識に刷り込まれ、心が同じように反応するようになり、善悪の判断が似たものになるそうです。地域や組織の文化とはそうしたもののなのでしょう。

知識や経験は固定観念を構築し、生きる気概や価値観を形成します。問題は、知識や経験が生まれながらの身体の働きと共鳴しない場合です。知識や経験が、本能の働きは間違っていると判断すると、心身に不調が表れます。身体の裡（うち）なる声を聞かない生き方には無理があるのです。いま、ウェルネスが注目を集めているのはそうした背景からかもしれません。

野口晴哉（はるちか）先生は整体協会を設立し、身体感覚に従うことによって心身の健康を保つという活動を提唱されました。その中から二点をご紹介します。ひとつは、頭がぼかんとする瞬間をつくって、自らの裡なる要求が浮かび上がるようにすること。もうひとつは、自分の内心の声だけで他人の内心をわかろうとすることです。言動に表れない感覚を呼び戻そうとするのです。

集合的無意識の起点は、身体感覚にあるのではないかと感じます。二つの提案は誰にでもできることです。それが心の豊さと健康長寿をもたらしてくれるのであればとても魅力的です。

（前中小企業基盤整備機構 岸本吉生）

HOME

(60) 十五の春

2023.7.7

7年前に糸満市の平和祈念館を訪問した私は、ひめゆり部隊の野口貞雄校長の生きざまに感動し、沖縄戦のことをどうしても知りたくなりました。八原通博氏の「沖縄決戦」に出会い、一日も長く戦争を引き伸ばすことを目的として多くの御霊が最期を遂げられたことを知りました。ひめゆり部隊の女学生の多くは、野口校長と同じく全国各地の女学校の教師になる方々でした。そのご遺志を受け継ぐことができないかと考え続けています。何のために学ぶのか、それをどう役立てるかという志こそが要ではないかと思います。

江戸時代の哲学が参考になるかもしれません。船橋晴雄氏は「反近代の思想」において荻生徂徠を取り上げています。徂徠は「一人ひとりには個性ともいうべき気質がある。上司が指図をせずとも本人の志を発揮させるように人を育て活躍させることが要諦である」と述べています。徂徠の言が正しいならば、自らの職業選択の答えとして、組織人としてお金儲けをするよりも、周囲や故郷のために働く人生を選びたいという子供たちがいるでしょう。

沖縄の離島には「十五の春」という言葉があります。高校のない地域の子どもたちは、志をもって15歳で独立するからです。高校に進学して、いつの日か故郷に貢献したいと願っている方もおられるでしょう。そうした未来を開く小中高教育は、これまでも十分取り組まれていると思いますが、インターネットが常時接続され、生成人工知能が普及するこれからを生きる世代にふさわしい取組みによって、生まれ育った島を離れる日がワクワクする十五の春にできないかと思います。

(前中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(61) 生活者の感性

2023.8.4

今年の訪日外客数は早くも1千万人を超えた。渋谷では子供連れのご家族をたくさんお見かけする。その観光目的は何だろう。

谷口正和氏は30年間にわたり世界の都市を訪れ、社会の変化をキーワードにして発信してきた。2016年に出版された「文化と芸術の経済学」では、「文化と芸術なくしてこれからの経済と経営はなりたない。風土、食べ物、生活文化すべてが資源となる。それを伝える最強の媒体は都市だ。」と訪日外国人の増加を予言している。また、「SNSの発達によって、生活者は文化と芸術の発信者になった。これからの生活者は自らの使命を見定め、情熱を持ってライフワークに挑む。他者との関係に愛着を持つ。」と書き残している。生活者が芸術の発信者になるとはどういうことだろう。

芸術とは、喜びとか愛と正義とか、発信者の個性を使って目に見えないものを可視化する営みだ。渋谷を歩く外国人観光客は、ファッション、接客、食事など、日常の生活文化から日本人の感性、価値観を経験する。その経験はSNSによって発信され、渋谷の生活者の感性は世界に拡散していく。海辺や中山間地はどうだろうか。

他者に貢献することが幸福だという認識が静かに広がっている。一度きりの人生をなにかやりたいことに傾けようとする熱量は多様で力強い。自然とのつながりや集落の高齢者との関係を求めて都会から移住する20代から30代に、その力強さを感じる。都会からの移住者の感性と訪日外客の感性がどのような化学反応を起こすのか楽しみだ。京丹後半島の伊根はそんな街の一つだ。

(元中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(62) 動かない希望の星との出会い

2023.9.1

「定年後にやりたいことがあってそれをやりたい」と考えているのなら、一つアドバイスがある。そう言って下さったのは大学生の就職活動の時に「同じ組織で働きたい」という強い想いを下さった先輩です。喜寿を迎えた今も元気に現役生活をしておられます。

やりたいことを始めたものの山あり谷あり、実入りもおぼつかないこともある。そんな時に他人を羨んだり、自分の決心を後悔したりしたらあかん。死ぬその日まで君が追いつける「動かない希望の星」を見つけなさい。その日から動かない希望の星探しが始まりました。

コロナ禍は私たちの生き方に何かを問いかけていると感じていました。三大都市圏に千万人規模で人々が移動した日本。都会に生まれた人は、自然の恵みとどう付き合ったら良いのか。安心と安全をどのように手に入れたら良いのか。農山漁村の作法やしきたりは私たちはどう活かしたら良いのか。自問する日々でした。

動かない希望の星は「他己社会」だと思いうに至りました。様々な個性を持つ私たちは違いはあっても優劣はない。他人と己の価値は同じ。それが他己社会です。他己社会に照らして日々の仕事を進めたいと思っています。

先週、その先輩が進行するテレビ番組で、全米で有名な Babson College の起業家教育について学ぶ機会がありました。結びは「志を立てて Just Do It.」でした。ご自身が実践されてきた一言に重みを感じています。

(元中小企業基盤整備機構 岸本吉生)

HOME

(63) いのちの洗濯

2023.10.6

石鎚山の源流が中央を流れる愛媛県久万高原町。風光明媚な山水郷である。久万町、面河村、美川村、柳谷村が合併してまもなく 20 年を迎える。その面積は大阪市や神戸市よりも広い。36 ある大字の一つ日野浦にある土居商店は、私にとっていのちを洗濯する場所だ。出会いは 13 年前の夏。久万高原商工会の経営指導員の渡辺浩二さんの紹介だった。商工会の女性部長をしている土居商店の千枝さんのところに行こうと。

松山で県警本部に務めていた私は、その後、土居商店に出掛けては英気を養わせていただいた。ご主人の昭平さんの鮎の一夜干しは香りも味も素晴らしい。千枝さんの料理は四季折々、近隣の野菜や山菜を用いた草料理。ほのかな甘みがなんとも懐かしい気持ちになる。松山の三越でも大好評だ。このあたりの大字は家ごとに茶畑がある。近所の福田シマ子さんと摘んだ新茶を炒って、茶道の師匠と野点をしたとき、自然と共にその恵みを楽しむ暮らしがいのちの洗濯なのだと気がついた。

明治時代に全国に一万以上あった村は、市町村制度の運営の過程で大字となり、戦後は急速に減少して現在は 200 足らずだ。大字毎にあった寺社や祭りや学校は衰退した。

数学者の岡潔先生は、「人と人とが通じ合い、人と自然とが通じ合うときに生まれるものが情緒だ」という。子供の時から情緒が育まれ、その土台の上に喜怒哀楽が生まれ、善悪の判断が生まれ、他人のために辛抱する関係性が生まれるという。村という山水郷こそが日本人の精神を育む場所だったのではないか。村の暮らしが私たちの精神性を育む情緒の母胎であり続けますように。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(64) 輪島塗の心

2023.11.10

大学に進学した時、父は定年して収入がなかった。一家の生計をたてるために輪島塗の小売店を起業してくれた。その苦労は聞かされなかった。仕事で輪島塗の方とお会いするうちにそのことを思い出し、自分も定年後に輪島塗にいささかなりともお役に立ちたいと思い、訪問を重ねている。

輪島塗は、塗師屋さんが全国を訪問し、注文、修理、納品を重ねる商法が主流だった。顧客の考えをおおまかに聞いて、塗師屋さんを中心にものづくりをする。塗師屋さんは、営業と生産管理と資金繰りの全てを担う業態だ。

多くの工程を分業する輪島塗は、この 30 年苦労が絶えないが、蒔絵と沈金を施した作品は実用にも鑑賞用にも高い価値を持っている。その価値を顧客と共有する試みは、むしろ海外との取組みが先行している。

伝統工芸士の北濱幸作さんは、ドイツ、アメリカなど海外から直接生産を依頼され、斬新な作品を次々に制作している。蒔絵師の若宮隆志さんは、彦十蒔絵グループを率いて、海外に輪島塗の魅力を伝え活躍している。日本文化の本質を作品にいかに盛り込むか。源氏物語から泉鏡花まで多くの題材に学んで自然と人情を表現されている。

人間の能力の一部がコンピュータに置き換わる時代に入り、感情と感覚の起点になる情緒のスイッチを押すものづくりの魅力は内外で高まる。ふと手にしたくなる作品には作り手の情緒と願いがこめられている。普段気づかない情緒をずっと照らし出してくれる。私も多くの方が一生大切にしたい品を見つけるお役に立ちたいと思います。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(65) 巣箱選び

2023.12.1

上京して 41 年間居を構えることのなかった私は、一度だけ自宅を購入しようとした。下の子が 11 歳の時だった。相談した方々は異口同音にその必要はないとおっしゃった。理由の一つは、実家があるのならそこに住めばよいから。それよりも私の胸に響いた言葉は「自宅は子供を育てる巣箱なんです。子供が巣立つのに今さら家を買うのですか」という助言だった。

祖父母、父母、姉と育った家は阪神大震災でなくなり、父のたっでの希望で新築された。生まれた場所で最後の暮らしをするのは良いことだと考え、定年後の仕事は実家で働くことを前提に考えている。

全国の空き家の戸数は 900 万戸を超えているだろう。家は、建てる時代から建ったものを選ぶ時代が変わった。巣箱としての家を選ぶ判断基準はどのようなものだろうか。子供が虫や草花と遊ぶ場所がある。近くにある山や川や海で家族が自然と親しめる。人情のある近所付き合いができる。子供の情緒の発達を考えても、働く世代の心身の健康のためにも、風光明媚な場所が良いのではないか。

子供の時に観た風景は一生の財産になる。コンピュータのおかげで、時間と空間を超えて仕事ができる領域が格段に広がった。首都圏から移住する家族にはそうした動機があるように感じている。町村部の集落で高齢者のお役に立ちたいという動機にも共感できる。町村部の公立学校には、地元で生まれ、あるいは移住して来たの子供たちのために、経営の創意工夫をして、次世代を育てる役割を果たしていただきたいと思う。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(66) 前払いという被災地支援

2024.1.12

能登半島地震により被災された皆様にご冥福をお祈りしお見舞い申し上げます。

熊本地震では、熊本城、阿蘇など多くの方が愛する場所の状況が連日伝えられました。被災地に赴き被災者とふれあい励ます、物産を注文して仕事づくりに協力するといった支援が全国から寄せられました。

地震から数日して、尊敬する蒔絵師から募金の案内をいただきました。このままでは仕事を辞める人が増えてしまう。仕事環境の再建、道具や資材の調達、事業の運営のための資金です。募金にとどまらず前払いで輪島塗を注文するという支援はいかがでしょうか。

漆器づくりは、原材料、生地、塗り、蒔絵、接客のそれぞれが個人の経験と情熱に支えられた一期一会の仕事です。顧客が使う光景を思い浮かべ、その方にふさわしい品を創意工夫して手間をかけて制作します。堅牢さと蒔絵沈金の美しさを特色とする輪島塗は、家族や企業の記念品にぴったりです。

還暦から百寿まで8回の長寿祝いがあります。会社には創業何十周年のお祝いがあります。お祝いの日は予めわかっています。干支、神と仏、花鳥風月など日本文化を描いた品には愛でる喜びがあります。

「納期はお任せします。末永く大切に作る品をお願いします」と依頼することは、輪島塗に携わる方を励まし仕事をつくる意義があります。世界平和、長寿、家内安全、事業繁栄を祈念して輪島塗が数多く注文されるよう応援したいと思います。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(67) いのちを運ぶ鉄の自然科学④

2024.2.2

1990 年、一本の論文がネイチャー誌に掲載された。カリフォルニア州立大学モスランディング海洋研究所の所長を務めたジョン・マーチン博士の論文だ。海水中の植物性プランクトンの増殖に微量の鉄が必要であることを明らかにした。

動物の呼吸に必要なヘモグロビンには鉄が含まれている。植物はどうか。光合成に必要なクロロフィルとヘモグロビンの化学式には共通点がある、ピロールという部分の分子構造だ。両者のピロールは四つの窒素の中心がマグネシウムか鉄かという違いがあるだけだ。今では、クロロフィルの生成に鉄が必要であることが確認されている。動物はクロロフィルからヘモグロビンを生成する。いのちを運ぶ鉄のメカニズムは自然科学者のフロンティアである。

植物プランクトンは、陸地にある鉄が水溶性のフルボ酸鉄となった時に摂取する。腐葉土や枯葉に含まれる鉄が、菌類や微生物の働きによってフルボ酸鉄となり川から海に流れ込むと、それを植物性プランクトンが取り込む。フルボ酸鉄を取り巻く研究は、分析化学と生物学の両面から、まだ始まったばかりである。

1993 年、北海道大学の松永勝彦教授による調査が岩手県から気仙沼湾に注ぐ大川流域で始まり、気仙沼湾の海洋生物が依存する窒素、燐、フルボ酸鉄の 90%が大川由来だと確認された。2005 年からの北海道大学の白岩孝行准教授による研究によって、森林や湿原で生まれアムール川を経て海に注がれるフルボ酸鉄の濃度は海水の 100 万倍だと分かった。

(下につづく)

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(68) いのちを運ぶ鉄の自然科学㊦

2024.3.1

2004 年、地球温暖化対策を担当する私は、安田喜憲教授にお会いするために京都の国際日本文化研究センターを訪問した。安田先生は古今東西の文明が環境とどう向き合ったかの第一人者だ。安田先生を座長に 21 世紀の環境と経済と文明を考える研究会が発足した。第一回研究会は「食と地球環境」をテーマに気仙沼市の牡蠣養殖家、畠山重篤様に企画していただいた。養殖場と大川の源流域を訪れ、海の生き物には森が必要なんだと教えられた。2006 年、研究会メンバーは、いのちの無限の循環を目指し、ものづくり生命文明機構を設立した。安田先生のあと前環境事務次官の中井徳太郎さんが理事長を務めている。

畠山さんが「森は海の恋人」という言葉を編み出したのは、フルボ酸の科学が実証されるよりも前だった。畠山さんはそれから 30 年以上かけて、フルボ酸と森川海の連環を京都大学、北海道大学などの科学者とともに研究している。フルボ酸鉄の科学が進展し、フルボ酸を量産する企業が現れた。フルボ酸の工業生産には原料として木材が必要だ。海の生態系を回復する道すじが見えてきた。

日本の山林は杉と檜が多い。これからは伐採した針葉樹からフルボ酸鉄を生産し、川や海の植物が繁殖するために利用する時代だ。畠山さんの夢は、全国二万の河川にフルボ酸鉄が甦り、海藻と魚介類に恵まれる豊かな海をつくることだ。海が豊かになれば、繁茂した植物が二酸化炭素をたくさん吸収することは言うまでもない。南極海でそれを行おうという大規模な構想もある。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

(69) 喜びと共感を体験するキャリア教育

2024.4.5

デザイン思考を研究していたとき、ziba tokyo の平田智彦社長から同社の方法論の説明を受けた。情報と論理だけで組み立てる方法論ではない。感覚を大切にし、視点を変えて組み立て方自体を自問する。それ以来、デザインとは何かを問い続けている。

私の仕事は、人生のデザインと仕事のデザインをお手伝いすることだ。論理だけでなく、五感と喜怒哀楽を組み入れて言葉でデザインする。デザインは美に関するものと思われがちであるが、真や善もデザインの対象だ。仕事のデザインには真善美が欠かせない。NHK のプロジェクト X とプロフェッショナルは、はっきりとそのことを伝えている。

大きな組織は、私たちが機械であるかのように規格と反復を求める。昭和の戦後はその色合いが濃い時代だった。現在の学習指導要領は、複雑で予測困難な社会を担う人材を育てようとしている。個人の能力を涵養するとともに社会の形成者として活躍する人材を育てるという二つの目標は変わらないが、幼稚園から高校まで五感と喜怒哀楽を重んじる体験の役割が高まっている。

この両親から生まれてよかった。この場所で生まれてよかった。ここで学んでよかった。ここで働いてよかった。そうした感覚はどのような教育から生まれるのだろうか。

制約条件の下で構想するのがデザインだという考えがある。本当だろうか。個性的なデザインが愛されるのは、デザイナーの個性が共感を呼ぶからだ。人生や仕事をデザインすることには生きる喜びがある。学校におけるキャリア教育の要点は、喜びを感じそれに共感する体験を仲間と積み重ねることではないか。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(70) エネルギーを使わないライフスタイル

2024.5.10

人類の営みは、エネルギーとともにある。化石燃料の枯渇が心配された 50 年前を想起すると、エネルギーの過剰使用が地球規模で起きているいま、エネルギーを使うライフスタイルの方向転換が迫られている。

政府の地球温暖化対策では、2013 年と比べて、2030 年までに家庭部門で 40% の CO2 削減が予定されている。省エネルギーの役割はわずか 14% だ。

家庭では、冷房のためのエネルギーの 10 倍以上が暖房と給湯に使われている。自家用車のエネルギー消費は、2010 年以降、燃費向上にもかかわらず 1990 年の水準を 20% 以上上回ったままだ。

これからは、コンピュータ分野の電力消費がさらに増加する。自動車や空調を豊かに利用するライフスタイルを転換する時期だろう。暖房をしないで過ごす工夫をする。自動車を使わないで暮らす工夫をする。驚くことはない。つい 50 年前は当たり前だったライフスタイルである。

炭素税や排出量取引は、エネルギーの価格を人為的に引き上げてエネルギーの利用を抑制する制度である。言い換えれば、お金を払える人は好きなだけエネルギーを使える制度である。ここ数年の電気料金とガソリンに対する政府の対応をみれば、そのような社会が歓迎されていないことは明白だ。

エネルギーを使わないライフスタイルは美しい、カッコいい。そうした日常は、世界各地で流行している。合理性や豊かさを上回る価値はあると考える社会は、古代から繰り返し訪れてきた。次世代の流行に上の世代が従うことは耳順、良いことである。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(71) 環境と経済と文明

2024.6.7

地球環境が経済に優位する。そのことが法律的に顕在化したのは2004年だった。ロシアが京都議定書に参加し、日本は温暖化ガスを6%削減する義務を負った。義務を負う国と負わない国が併存するなかで約束を履行しなければならない。未来に悔いのない政策の起点を過去の歴史から得られないか。そう考えた。

「講座 文明と環境（朝倉書店）」という全集がある。古代ギリシアやイースター島のように、環境が文明を滅ぼした国や地域がある。縄文時代や江戸時代のように数百年以上環境と共生した国や地域がある。その違いはどこにあるのか。全集を編集した安田喜憲教授を京都にある国際日本文化センターに訪ねた。森を守る。自然に畏敬の念を持つ。それが21世紀の人類が守る最大のことだと教えられた。

安田先生を座長に中央省庁、産業界、研究者が集まり「21世紀の環境と経済と文明を考える研究会」を始めた。おかねよりも大切なものがある。いのちだ。生きとし生けるもののいのちの連鎖を社会活動の最上位に置く。研究会のメンバーはNPO ものづくり生命文明機構を設立した。

安田先生は喜寿を迎えられた。日々の暮らしでは気づかない大切なことが多くの著作に記されている。いのちの循環の論理は多対多の論理である。それをどう実践するか。環境教育に人類の歴史の視点を加える。「その活動は、生きとし生けるものに良いことか。他者から見て問題ないか。」子供のころからこのような設問に向き合うことで日本の針路が変わっていく。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(72) 環境基本法の視点

2024.7.5

環境基本法は、国連地球サミットの翌年1993年に制定された。この基本法の特徴は環境を定義していないことである。公害対策基本法を母体に人間の生活環境の保全を柱とし、地球環境に影響する人間の活動を加えたためである。基本法制定前から、自然の保護、文化の保護を環境に加えるべきとの意見もあった。生物多様性という課題も加わった。今後ともいくつかの内容を包摂していくだろう。

人間から見れば外部の環境に見えても、絶滅危惧種に代表されるように、生きとし生けるものから見れば自分事になることは明らかだ。日本の法律は、人間以外の生存権を認めていないが、生きとし生けるもの、いのちを支える天体や地球に心を配るにはどうしたらよいか。先人はどう取り組んでいたのだろうか。古今東西人類は天と地を大切にしてきた。お天道さまの言うとおりに公明正大に生きることが誇りにしてきた。

環境基本法の役割は政府の施策を明らかにすることだ。私たちにできることはないか。白川郷、石鎚山、奥能登、辺野古をはじめ、農山漁村の景観は私たちの心に等しく響く。いのちに感謝する心の原点だ。天と地に感謝して生きる心を培う環境教育こそ次世代への贈り物ではないか。その射程は生活環境にとどまらず、他者への共感、生きとし生けるものへの愛情、お金といのちとの関わりと広い。法律があるから政策があるから対応するという姿勢ではなく、天と地に感謝するくらしを大人が率先する。そんな地域づくりを目指したい。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(73) 相互理解と融和をうながす政府

2024.8.2

ポール・クルーグマン博士が「移民の国アメリカは、親の世代より子の世代が豊かではない国になる」と警鐘を鳴らしたのは1992年だった。所得と基礎学力の関係が強くなり、農山漁村や工業都市の世帯では子どもたちが教育と職業選択に苦悩している。移民のいる国では、移民を子守に雇う世帯と、子供の同級生に移民がいる世帯では、認識は大きく違う。

日本では非正規雇用が定着し、数百万人の若い世代が賃上げも昇進もない生活を強いられている。先進国共通にポピュリストと呼ばれる政治家が現れ、エリート層や政府への不満を体現して議席を増やしている。

シカゴ大学のラグラム・ラジャン教授の「第三の支柱(みすず書房、2021)」では、この問題には政府と市場の二元ではなく、生活の場所、コミュニティを活躍させることが有効だと論じている。格差には生活文化や基礎学力が影響している。利用者に応じて教育や福祉を柔軟に提供するには地方政府とコミュニティの対話が欠かせない。近所の人との心遣いと助け合いは、日々の苦勞があっても生きていく元気につながる。

人工知能の普及とともに、人生の軸足は共感性と創造性にシフトしている。コミュニティは年収以外のさまざまな価値に共感する場所になる。中央政府の役割は、異質なものを嫌ったり排除したりしない雰囲気づくりだ。政権を得たのちに、立場や意見が違う者の相互理解を深め、融和を育むことが政治の大切な役割になった。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(74) エッフェル塔の思想

2024.9.6

エッフェル塔は 1989 年のパリ万博のために建設された。来世紀を世に示す試みとして鉄の高層建築が選ばれた。取り壊す計画もあったがいまではパリの象徴となっている。エッフェルが塔のモデルとしたのは、ローヌ河畔ヴィエンヌにあるオベリスクだと言われる。このオベリスクはローマ人が古代エジプトのオベリスクをあしらって建てたものだ。そして古代エジプトのオベリスクの原型はピラミッドである。

三基の巨大ピラミッドは大麦の産地、ナイル川の下流域にある。王ファラオはピラミッドにおいて、太陽神ラーと地上神アメンを繋ぎ、穀物の霊オリシスに豊穡を祈った。太陽と水といのちの循環と再生を保つのがファラオの仕事だった。ピラミッドもその後のオベリスクも、天地を繋ぎ、太陽と水を融合する祈りの場所なのだ。

エッフェル塔はなぜ時代と文化を超えて人々を魅了するのだろうか。

19 世紀後半のパリはエジプトブームだった。ナポレオンがエジプトに遠征し人々の意識はヨーロッパの外へ、古代へと広がっていた。ユネスコは 2001 年に「文化の多様性に関する世界宣言」を発表した。そこでは「すべての創造的行為は文化的伝統に根ざし、他の文化的伝統と接触して開花する」という見解が示されている。エッフェルは、先の見えない世紀末にわが身を置いて、長い時間軸でこの塔をデザインした。オベリスクに悠久の思想を感じたのだろう。私たちが、天に伸びる優美さに心地よい情緒を感じるのは、そのデザインの背後の思想に共振しているからかもしれない。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(75) 喜怒哀楽と誇り

2024.10.4

八街市立朝陽小学校では、道徳と総合的な学習を組み合わせた特別の授業が行われています。いのちの輝きとその永遠なることを「常若」と名付けて常若を生きる経験をするプログラムです。常若甲子園を準備している私に、及川直人先生から6年生の皆さんとひとときを過ごすよう依頼がありました。

教室の壁には皆さんの抱負が書かれています。明るい、楽しいという言葉が多くありました。実際にはどうでしょうか。

喜怒哀楽に優劣はあるのでしょうか。喜びと楽しさは何が違うのでしょうか。授業では、最初にそのことを問いかけました。バッハの平均律第一番プレリュードと一緒に聞きました。明るい曲でも楽しい曲でもありませんが、心が安らかになる曲ではありませんかと尋ねてみました。

喜びは自分で作ることができる。好きなこと、大切なことに没頭した時間は、誰がなんと言おうとも喜びを感じる。悲しい時でも喜びは作れる。そんなお話をしました。

喜びを作れた時の気持ちをどういう言葉で記憶しておけば良いか。「誇り」という言葉を紹介しました。周りの人が反対しても一人になっても「これでいいんだ」と思う時があります。その気持ちを「誇り」と言います。そうお話ししました。

辛いとき悲しいときには楽しいことをしたくなるのが私たちの日常です。喜びは、積み重ねた時間の上に咲く一輪の花ではないでしょうか。長年の努力、陰ながらの努力が実を結ぶとき、それまでの辛いこと悲しいことが喜びに変わる。そんな希望を持って中学校に進んでいただきたいと思います。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(76) 体感治安

2024.11.1

施錠された自宅に侵入する強盗集団が相次いでいる。体感治安をこれほど低下させる犯罪はない。凶悪犯罪は、殺人、強盗、放火、不同意性交の四つだ。犯罪の動機はいろいろあるが、お金目当てに凶悪犯罪を犯すのは強盗だけである。令和5年の強盗の認知件数は1361件。犯罪者同士が顔見知りですらない集団強盗を抑止することはできるだろうか。

闇バイトはアルバイトなのだろうか。闇バイトに参加した犯罪者は故意で行為に及んでいる。雇われているのではない。報酬目当ての約束に基づいて仕事をしている。故意の犯罪者である。

1999年に成立した組織犯罪処罰法は「共同の目的を有する継続的結合体であって、その行為が組織により反復して行われるもの」を対象としている。

個人の故意を基礎とする刑法では処罰が難しいから制定された。しかしながら、マフィアや暴力団の犯罪は抑止できても、プロジェクト単位で実行者が流動する集団犯罪には対応できない。

政府、与野党には一日も早く体感治安を回復していただきたい。一つは、捜査当局の人権侵害を監視し抑止しながら、変化する特殊詐欺、闇バイト強盗などのプロジェクト型の集団犯罪を抑止できるよう、重罰化、犯罪の構成要件、許される捜査手法など犯罪対策全般を強化することである。一つは「悠久の大義」が普及するよう、各界の指導層が貧困問題と家族の団欒に優先して取り組むことである。いのちある限り大義を追い求める大人が周りにいることを小学校を卒業するまでに実感することである。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(77) 教育現場の遊撃手

2024.12.6

始業前の小学校では、校庭で遊んだり、草木に水やりをしたり、出欠表を職員室に届けたり、生徒が忙しく動き回る。鳴門西小学校に勤務する前田晴雄先生は、すべての児童に自分から声をかける。みんなが笑顔と挨拶を返してくれる。よく知らない児童にも例外なく声をかけるのはなぜなのか。児童の身の上を知らないために指導に苦労した経験があるからだという。核家族で育つ子供は家庭内の問題を誰に相談するのだろう。教育現場としてはだれがどう関わればよいのだろう。

心の問題は、教室で勉強する態度に影響する。教員はその兆しに気づいている。教科教育に専念する教員と、生徒間の問題や家庭内の問題に関わる担任の教員とのチームワークが必要だ。ひとり二役の現状には無理がある。

文部科学省は、いじめや不登校に対応するためにスクールカウンセラーを全国1万校に配置している。臨床心理士の資格をもつ心の専門家だ。しかし、勤務時間は週8時間程度にすぎず生徒との接点も多いとは言えない。

教員は、学校を管理する事務作業、コンピュータなどのために以前に増して忙しい。教育現場の遊撃手として、常勤非常勤、年齢を問わず意欲ある方を採用すれば、複数の問題にチームで動きやすくなる。心の問題に携わる教員は、教員資格や臨床心理士の資格がなくても、警察官や消防官のように研修と実践を通じて能力を培えばよい。学校の誰かを信頼することから、児童はあしたも学校に行こう、もっとがんばろうという元気が出てくる。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(78) 霊山にまもられる

2025.1.10

本殿に大太鼓の音が鳴り響く。参拝者の五臓六腑に沁みわたる。何かを感謝して、何かを志して神に向き合う者を迎える厳かなひと時である。

愛媛県の石鎚神社は石鎚山がご神体だ。横峰寺と前神寺という二つの札所も石鎚山を霊山と仰いでいる。西日本最高峰は海から望む姿が美しい。横峰寺境内の石楠花は四月からが見頃だ。十月になると全山が赤や黄に色づく。岩に映える紅葉は何度でも訪れたくなる。参詣客は地元だけではない。福岡県をはじめいくつかの県には講が残り七月の山開きから大勢が訪れる。

山には神がおわす。里に住む者は古来山に畏敬の念を抱いてきた。山に登り滝に打たれ心身を清めるのは日本人の日常だった。日本には主な霊山だけで北は出羽三山から南は阿蘇山まで40以上ある。

登山は、生きとし生けるものと自分が一体になるひとときである。霊山には山伏がいて先達がいて初心者がいる。いまも変わらない。

花供入峯（はなくにゅうぶ）という行事がある。六月上旬に京都の醍醐寺一行が奈良県の大峰山から吉野山に登拝する。初心者も同行が許される。そのときの先達の言葉は「真言宗では即身成仏と言いますが、この修業は即身即仏です。仏さんになったつもりで一步一步踏みしめて歩きなさい。」だった。四日間同行した感想はまさに即身即仏。山路と湧き水にいのちのありがたみを深く感じる経験となった。

初詣の余韻に今年は霊山詣でをいかがでしょうか。優しいお山、風光明媚なお山がおすすめです。

（デザインコンサルタント 岸本吉生）

HOME

(79) もしも共和党が

2025.2.7

2016 年、トランプ大統領は「アメリカを偉大な国に」と訴え勝利した。大胆な政策を実行しようとしたが議会両院との調整は難航した。共和党幹部はトランプ政権との政策協調にどのような意志を持っているのだろうか。

レーガン政権以来、アメリカの政策運営は「新自由主義」が基調である。その結果、農業と工業は中流家庭の職業ではなくなった。地域格差と職業格差は深刻になった。高卒と大卒の相当数が中流から脱落した。家族や地域が共有する社会道徳も働く組織への帰属意識も色褪せた。

都会では高所得高学歴の人々が民主党を支持し、田舎では福音派が共和党に取り込まれた。両党の支持者の社会階級は逆転し両党の主張も変わった。黒人解放運動や労働組合が不平等を是正する議会政治の機能は失われた。そして民衆の行きどころのない不満はポピュリズムに向かっている。

第四十七代トランプ大統領の公約は、「中流の労働者を守りすべての国民がアメリカ国籍に誇りを取り戻す」ことだ。その各論はアジェンダ 47 に述べられている。しかし、中流だった人々が満足を取り戻すには 5 年以上かかるだろう。保護貿易と移民労働者の削減は足元の経済を悪化させる。共和党は有権者の期待と不満に答えられるだろうか。新自由主義に代わる政策運営の体系が手元にあるわけではない。民衆との対話から、生きる喜びの種を拾い上げて芽吹かせて見せられるか。高学歴でない民衆の職業の年収を上げて見せられるか。

民衆の政党だという信頼が生まれるかどうかは共和党の未来を左右する。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(80) 卒業制作

2025.3.7

小学校から高校までの思い出に卒業制作がある方はおられるでしょうか。私の卒業制作は小学校 6 年生の時でした。一人一枚タイルを焼くのです。「世界にはばたけ！」というタイルを校舎の壁に貼ってもらい嬉しかったことを覚えています。大阪万博に通って世界が一つになると予感し、札幌オリンピックでは金銀銅メダルを占めたジャンプ競技に感激し、大人になったら国際機関か外国政府と関わる仕事をしてみたいという夢を持っていました。その夢は叶えられました。

この 1 年間、松山の起業塾、富山商業高校、八街市立朝陽小学校の卒業制作をお手伝いしました。ぐんぐん成長され、澆刺と発表に臨む姿に胸を打たれます。

起業家の皆さんは、いまの暮らしを捨てて夢に挑みます。ご家族の依頼に応じて絵本を納品する作家さんは、高校では造園を学び、別の分野の専門学校を卒業してからの転身です。

農業にこそ地域の未来があると商業高校から農学部へ推薦入学する高校生。社会的課題に貢献する理想の会社を一人一社デザインするゼミを指導するベテラン教員。家族に障害者を持ち、障がいとは、健常とは、障がい者が気後れしないまちを哲学する小学 6 年生。常若と弥栄を教え、地域に役に立つ活動を、70 人がグループに分かれて制作するよう指導し激励するイケメン先生。それぞれの心に卒業制作が刻まれました。

苦しい時、大切な決断の時に役に立つ宝になるでしょう。魂を傾けた卒業制作に感謝し、続きをする決意を喜ぶ。そんな卒業制作に励めたら学校生活の思い出はかけがえのないものになるでしょう。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(81) 行動習慣

2025.4.3

私たちの毎日は行動習慣の組合せです。

朝起きたら体操する。道で鉢合わせたら「お先にどうぞ」。転んでも自分で起き上がる。行動習慣は、子どものころは家族から、大人になれば読書や他人から、誰かからの教えによって培われます。経典、ことわざ、故事成語は行動習慣の源泉です。いまは各種の自己啓発情報もあります。それぞれの職業にはそれぞれの行動習慣があります。霞が関は「冠婚葬祭は仕事に優先」という習慣がありました。実家を離れた者同士の互助だったのですね。

行動習慣を破る勇気も必要です。石破総理は国会の行動習慣を破り、予算の修正、再修正をしました。少数与党の立場に即して行動習慣を破った英断だと思います。

成功する人に共通する因子を研究した女性がいます。アンジェラ・ダックワースさんです。「できるまでやればできる」という不屈の闘志をもつことが能力よりも重要という結果が出たそうです。

私が大切にしている行動習慣は「思うことと言うことと行うことの三つを完全に一致させる」です。仕事もくらしも円滑に進むよと教わりましたが容易ではありません。やってみるとすぐにわかりますが「言っではいけないこととやっではいけないことは思っではいけない」のです。行動習慣は意識を変えるのです。

「清く正しく尊く強く」生きると決めると、自分にふさわしい行動習慣がわかります。それは何か。人に決められたら嫌なものです。自ら思い立てばやりがいがあります。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(82) 衣食住何れともつかないひと時

2025.5.2

3月4月と輪島塗の関係者にお話を伺ってきた。工房や倉庫が損壊した影響は甚大である。お椀を例にとるとその工程は125以上ある。木地づくりから、下地、下塗り、中塗り、上塗り、加飾へと続く。中塗りまでして倉庫に長く保管して軽量かつ堅牢になる。硬い床に落としても割れずに跳ね返る。すべての工程に責任を持つ塗師屋は、在庫を抱えて未来に備える器量を求められる存在だ。

あるご夫妻がお椀を洗っておられた。黒も赤もよい色だ。中塗りまでしてあるから十分な品になるという。100年以上受け継がれる上等な品質だ。僅かな数しかない。どんな幸運な方がその器を手にするのだろう。

輪島塗の活路がどこにあるか考え続けている。塗師屋さんにお会いするほどに、活路は塗師屋が望むとおりにあると感じる。新しい意匠に価値を置く塗師屋もあれば、伝統の意匠を顧客の好みに詠えることに価値を置く塗師屋もある。顔料と乾漆を使って多彩な漆器を生み出す塗師屋もあれば黒と赤と溜の三色を呂色と蒔絵・沈金に加飾することに価値を置く塗師屋もある。

西洋では16世紀と19世紀の二度にわたり、素材と意匠の両面で漆器に絶大なる評価があった。コスパやタイパを求める顧客ではない。悠久、時間の繰返しを望む顧客だ。私の好みに合わせてできた漆器を私が死んだ後も私が愛する誰かが使ってくれる。衣食住のどこかにたたずむ器でありながら、そのいずれともつかないひとときにふさわしい。そんな器だ。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(83) 自分の人生をマーケティング

2025.6.3

22年に県立富山商業高校にビジネスマネジメント科が新設されました。5月27日28日、同科が重視する川上のマーケティングを1、2年生と学びました。

私はピーター・ドラッカーの「マーケティングの理想は販売を不要にすることである。顧客を理解しおのずから売れるようにする」をマーケティングの定義に使います。おのずから売れることを心に描くと他人事が自分事になるからです。

1年生は、手に入れたくなる自分の人生を考えます。最後の日をどう迎えるか、どんな夢をかなえるか、どんな仕事をしてどんな顧客に喜んでもらうかをデザインします。できるまでやり遂げる方法、運が良くなる方法を教えます。年収や就職のことは後回しです。キャリア・アンカーという診断テストを用いて自分が精神的に満ち足りるのはどんな時かを確認して取り組みます。3学期には400字の作文を書いて、それを発表する姿を動画に制作します。

2年生は自分が気に入った人生を出発点に、どんなサービスを提供してどんな顧客に喜んでもらうかを作文して動画にします。題材は毎年11月に行われる商材即売会（トミショップ）でもそれ以外でも自由です。

3年生はチームで仕事をする力を培います。あなたの会社はどのような使命と価値観を共有するのか。社内の人間関係をどうするのか。部活動が有名な富商生がお得意とする分野です。

ビジネスマネジメント科の1期生は今春卒業しました。入試倍率は県下で2番目になりました。学科と生徒さんのこれからが楽しみです。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

(84) ポルトガルとスペインから見た日本

2025.7.4

定年を迎えた夫婦が選んだ旅行先はポルトガルとスペインです。リスボン、ポルト、オビドス、セビリア、グラナダ、バルセロナを10日間で周遊しました。

ポルトガルの風景は九州か山陰のようです。天草や佐世保そっくりの海岸線があります。宣教師たちが到来した時に「故郷と同じ地形が日本にある」と感動したに違いないと思います。人々の顔立ちも日本人と似ています。宣教師は自分たちに似ている少年を選んで天正遣欧少年使節を組成したのではと思ってしまいます。はにかんだ笑顔やおだやかな話しぶりに、日本の田舎を歩いている心地がします。鱈、鰯、蛸を使ったごちそうは東北の郷土料理のようです。

アンダルシアの海岸線にはシエラネバダ山脈があります。水と森があり城塞都市が点在しています。アラビア人とユダヤ人の暮らしが残っています。きっと地中海交易も盛んだったのでしょう。美男美女に会うと、日本のイケメンは、かつて中東から渡来した人々ではないかと思ってしまいます。

両国の方とも日本のマンガをよく知っています。ドラえもんは日曜日にテレビで放送され知らない人はいないそうです。ワンピースも人気があります。日本人の精神性、とくに道德、人間関係、夢や希望にあこがれを持つそうです。行ったことのない日本の精神文化がマンガを通じて愛されている。子どものころから、異国のことを絵本や読書で想像する大切さを実感しました。私たちも、まずは忘れられそうになっている日本古来の文化から始めたいものです。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

(85) オープンイノベーション

2025.8.1

私の会社の事業の一つは亜麻布の衣料品の開発である。織物師、仕立師、染物師、スタイリストが協業してお客様が喜んで買ってくださる商材を開発している。手探りで協業先を訪ねては協業する。それを繰り返している。

始めて気が付いたことは、契約書なく仕事ができる関係が大切ということだ。見通しの効かない状況にあっては、契約書はその都度の約束以上の意味がない。次の取引を今回より双方にとって良い取引にするためにどうするか。

協業して価値を創造したいから必要とされる限り協力を惜しまない。都度の採算は気にしない。投資対効果がまだ見えない投資だ。

オープンイノベーションに必要な信頼は2つあるのではないか。ひとつはメンバー間の信頼である。経営理念、内外の評判、作品などから、他者の立場を優先する人柄があるかを観る。協調性を超えて期待される以上の仕事をしようとする姿勢である。企業経営が続けられるのは、お客様に奉仕して信頼をいただくからである。他者への奉仕が利益や立場や契約に優先していないとオープンイノベーションは尻すぼみになる。

もうひとつは担当者に委ねることである。プロスポーツの監督は選手を起用すれば任せる。事後報告も事前相談も求めない。結果を信じて見守り励ましの助言をする。選手は監督から信頼されたからこそ一心不乱に取り組む。名誉と責任にかけて奮闘する。

コンプライアンスの体制にこのことを重視して創意工夫する会社が増えている。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(86) 北海道の左上 オロロン街道

2025.9.5

2021 年の夏、稚内信用金庫のご協力を得て起業家の皆さんとお会いしました。宇野剛司さんは天塩町にある 230 ヘクタールの牧場で、場内の牧草だけからミルクを生産しています。年商の夢は 100 億円、経営姿勢はしっかりしたものです。乳牛を増やすにはミルクの貯蔵が課題とのこと。なにかお手伝いできないか考えています。

ギーという乳製品をご存知でしょうか。発酵したクリームからタンパク質と水分を取り除くと香り高く常温で保存できる「奇跡のオイル」ができるのです。この夏、ギーを生産する提案を携えて宇野牧場に向かいました。厚切りのバターを山盛りにしたトーストを朝食にいただきました。お昼にはおなかがすくほど消化がよいものでした。きっとすばらしいギーができるでしょう。

天塩までのルートは国道 232 号です。北竜町のひまわりの里から山を越えると増毛から天塩まで日本海沿いに 130 キロの一本道です。増毛町には日本最北端の国稀酒造があります。1882 年創業。そうです。沿線には明治初期から鯨御殿が立ち並んでいたのです。留萌市、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町それぞれに開拓者の遺産があります。小平にある旧花田家番屋は重要文化財として保存され見応えがあります。

この地域の海鳥はウミガラスです。鳴き声からオロロンとよばれ地域のシンボルです。厳しい冬に来てくれたらほんとうの仲間だと現地の方からからかわれますが夏場の美しさは格別です。まずは夏場に、北海道の左上を感じるのはいかがでしょうか。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(87) 転倒予防の靴下開発

2025.10.3

陸海軍に靴下を供給していた江田島の中小企業は、戦後軍民転換を強いられた。レナウン、福助、ナイガイをはじめ大手のブランド向けの製造の道が開かれた。いつからだろうか、大手ブランドに代わって3足1000円の靴下が当たり前になった。お客様の役に立つものを作りたい。そこからオリジナル靴下の開発が始まる。

2000年に改正された中小企業基本法は、意欲ある中小企業を支援することを基本理念とした。組合中心の護送船団方式からの転換である。基盤技術を念頭に研究開発補助金が創設された。パールスター社は、同補助金を活用してオリジナルの靴下を次々に開発し、08年には日本ものづくり中小企業300社に選定され、12年にはものづくり日本大賞を受賞した。

新宅光男代表が着目したのは高齢者の転倒である。転倒による大腿骨骨折は命にかかわる。室内の転倒を避ける靴下ができないか。広島大学との共同研究により、足先が自然に上がり躓きを予防する靴下が完成した。理学療法学会、日本靴医学会などで発表され、年間数万足を製造販売している。

繊維製品の研究開発にはオリジナルの開発機器が必要となる。製品の性能を検査・評価するパートナーが必要となる。これらには国の支援と産学官連携が欠かせない。これからは絹や麻など天然繊維の機能を活かした繊維製品の研究開発も求められている。

なぜ衣食住の順なのか。生まれた赤ちゃんは食べる前に衣服を纏うからだ。製糸、織布、編物は2兆円産業だ。日本酒製造業の5倍である。この分野の中小企業が私たちの暮らしに喜びをもたらして、地域を元気にする可能性は十分にある。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(88) 手づくりの想念

2025.11.7

10 月は旅の季節。加賀友禅、芦屋釜、截金(きりかね)細工の工芸家に出会う贅沢に恵まれた。

友禅は筆と刷毛で布を染める。化学染料をインクジェットで染める工房が増えるなか、久恒俊治は草木染に挑む。菊桜という桜の花弁から染め上げた桃色の衣装は驚くほど美しい。むらなく生地を染めるには修練が求められる。微細な図案はなおさらだ。開発中の桐の木からとる染料は完成間近だ。媒染に用いる金属を変えることで色目が変わる妙味がある。

福岡県の芦屋は博多港の後背地にあたり、室町時代から茶釜を輸出していた。江戸時代に途絶えたが竹下総理の 1 億円を使って復活した。芦屋釜の里を訪問すると現代の名工の作品が見られる。その一人が樋口陽介だ。25 歳で養成コースの門を叩き「芦屋を東アジアの鋳物研究・生産センターにしたい」と意気込む。茶釜の製法を展開したコーヒーポットは多くの人に愛されている。

截金細工は、細かく刻んだ金属片を木に載せていく根気のいる工作だ。江里朋子は、人間国宝の截金師江里佐代子を受け継いだ。仏像の技法を棗、香盒、衝立、壁面装飾へと展開している。

江里朋子の作品展に母佐代子の棗が展示されていた。蓋を開けた途端に感動が全身に広がった。作り手の想念が器に乗り移り、時を超えて私に伝わったのだろう。

衣食住を大量生産の規格品に依存する私たち。手しごとの作品を身の回りに持つことは、悠久の念を感じる機会になる。衣類、什器をはじめ皆様に佳き出会いがありますように。そしてその輪が広がりますように。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(89) 土に帰る

2025.12.5

森は海の恋人。詩人のようなこの言葉を知ってから、土と水と生き物の関係を気にしながら暮らしている。

微生物は有機物を分解して清らかな飲み水にしてくれる。落ち葉から水溶性のフルボ酸鉄を取り出して川と海に供給してくれる。植物性プランクトンを起点とする食物連鎖は、魚類や陸上動植物に有機類の栄養を届けてくれる。キノコは樹木のリグニンを土に帰す。生菌根菌は樹木のリンやカルシウムを土に帰す。

水田は農地に水を湛えて土壌の酸性化を防ぐ。コメの生産高は畑の2倍になる。世界の人口の50%がアジアの水田地帯に住んでいるのはこのおかげである。都市の糞尿からリンやカリウムを回収できたら農地にリンとカルシウムを循環させられる。

輸入した資源を使わずに廃棄物から肥料を循環させられないだろうか。フルボ酸とミネラルを循環させる仕組みは、科学的な解明こそされていないが人類が一万年続けてきた技術である。

より多くではなく循環と共生を重んじる。使い古された言葉だが、農業を起点に考えると森里川海のつながりがリアルな行動になる。同じことは衣料品にもあてはまる。より安くではなく大切に使い続けて土に帰す。素材も染料も表面加工も天然の材料を使う。数千年の実績のある麻という素材を草木で染めるありがたみが実感される。

2025年大阪万博のテーマはいのち輝く未来のデザインである。その実践として土に帰る品を優先して使う暮らしはいかがでしょうか。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(90) 人文

2026.1.9

分けることが当たり前の世の中になりましたが、分けては解らないことがあります。鐺射寺の中村公隆大阿闍梨からそう教わったのは44歳の時でした。それから20年、人間の営みを人文と科学を組み合わせて考えようとしてきました。

いのち、魂、心、情緒とは何なのか、存在を確認することすら科学だけでは容易ではありません。なぜ身体はいつもうまく動くのか。無意識、潜在意識と身体の関係は科学ではほとんど解っていません。文化や社会はなぜ地域と時代で違うのか。それらを良い方向に維持するには何をすればよいのか。社会科学だけでは解りません。

文化を極める人と統治者たちはそのことをよく解っていました。歴史に学び、風流をたしなみ、宇宙と自然と祖先と交信していました。徳を積んでいました。世間を少しでも良くするためにそうしていました。哲学、信仰、愛、芸術を組み合わせて生きようとしてきました。

合理性、二分法の論理が当たり前なのが現代の特長です。哲学は目に見えないものを言葉で定義して表現します。愛と信仰は目に見えないものを情緒で感じ取り行動を促します。芸術は目に見えないものを五感で感じられるように助けてくれます。

人工知能のおかげで二分法が得意なコンピュータが科学の恩恵をますます発揮してくれます。私たちホモデウスは、目に見えないものを学び、楽しみ、相互に尊敬する社会、宇宙と自然に感謝する社会にまい進する。自然を信仰する心と愛がホモデウスの価値の中心となる。

丙午に見た初夢です。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(91) 和の政治の二票

2026.2.6

衆議院総選挙では個人または政党に二票を投票する。有権者は何を選んでいるのだろうか。

国レベルの政党は合法的な手段で政府を掌握する運動体である。アメリカの立憲政治の目的は共通善の実現である。建国時には政党は私利私欲のために集まっており好ましくないという共通理解があった。しかし 1860 年代までに共和党と民主党が全国組織となり、奴隷解放をめぐる対立が独立戦争を引き起こし 60 万人の命が失われた。

以来二大政党制は揺るがない。大統領選挙があるからだ。両党は支持者を得ようと敵の敵、中間派に対して多数派工作を行う。共和党が保守、民主党がリベラルという印象は過去のものだ。2024 年の共和党と民主党のアジェンダは多くの論点で類似している。有権者は共和党と民主党を都度選択している。

アメリカの連邦議員に党議拘束はない。法案審議で自己主張し可否を選択することが許されている。法案は審議過程でしばしば修正される。中選挙区時代の日本は自民党の一党支配だった。自民党は政府の法案提出にあたり、議論に折合いがつくまで総務会で審査した。提出後は党議拘束があり、野党の主張を反映した修正は稀（まれ）だった。

一部の支持しかない政策を政府が実行し不人気だったら政権が交代することは好ましいだろうか。「和を以て貴しと為す」は日本の伝統である。小選挙区比例代表並立制は多様な価値を実現しやすい選挙制度だ。有権者の二票は少数の主張を反映する。少数の主張をくみ上げる政府が可能である。少数党の主張に配慮する政治になれば議院内閣制であっても政権は安定する。

総選挙の二票はすべての有権者のために大切なのである。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

(92) 継往開来

2026.3.6

春秋の彼岸には菩提寺の丸田住職から法話をいただく。昨春は英瑞副住職からだった。大黒天を懐に入れて 3 回目の百日荒行に参りますと話された。日蓮宗は大黒天と鬼子母神を尊重する。福祿寿と法華経の守護神である。大黒天との結縁は 3 回目の荒行でないとできない。

くしくも私が通った幼稚園は打出の小槌幼稚園だ。荒行を終えた帰山式に参列した。副住職は大黒天修業の責任者に任命され大黒天の法名を授かった。結縁にあたって選んだ言葉は継往開来だ。古きを受け継ぎ将来を切り開く。

明治維新から 160 年、敗戦から 80 年は変化の著しい時代だった。改革の時代だった。私の世代は明治から敗戦までの歴史を学ばなかった。戦後の仕組みのすばらしさを教わった。イノベーションが加速するこれからはどうだろうか。

海外に行く前にはその国の地理、歴史、文化を学ぼうと思う。帰国してさらにそう思う。インバウンドのお客様にそうした方がたくさんいらっしゃる。皇室を知りたい。茶道を稽古したい。座禅をしたい。平家物語を読みたい。その思いに国籍や生まれ育ちの違いはない。

50 歳を過ぎると食わず嫌いや決めつけが多くなる。思わぬことを勧められたら素直にやってみなはれ。尊敬する先輩にそう教わった。霊山に登る。書道を稽古する。四股を踏む。関心をもっていないことを経験して大切なことに気づく。

歴史に学ぶ。先人に学ぶ。過去を敬う。副住職からそのことに気づかせていただいた。継往開来が当たり前になりますように。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(93) 四国遍路

2026.4.3

四国遍路の目的は衆生救済、仏性に目覚める、平和と安寧を祈るなどとされている。これからの「おへんろさん」は何を目的にするだろうか。

「四国へんろ道文化」世界遺産化の会は、遍路文化を継承する取り組みを 2000 年から愛媛県で続けている。へんろ道の保全とお接待に焦点を当てている。3 月 22 日に開催されたおへんろフォーラムでは、58 番札所仙遊寺の小山田憲正住職が「遍路を継承する意義は平和の祈りを未来へつなぐことだ。苦しむ方差別される方と私たちが恩の受け渡しをする場所であり続けたい」と開会の辞を述べられた。小山田住職は厳しい修行をしたのち同会の代表世話人を務めている。45 番札所岩屋寺の大西隆善住職は「おへんろさんは修行者である。厳しさ、苦勞、孤独のなかから大切なことに気付く。接する私たちはおへんろさんに布施をさせていただいている」と話された。

四国遍路は、世界随一の文化としての価値がある。ヨーロッパやイスラエルの多くの方がおへんろさんをしに来日している。一人で旅をしてお接待を受ける経験から、あしたもまたきょうと同じ日が来るという安心の大切さ、名も知らぬ他人を尊重する心の豊かさに気付くという。平和な日本の尊さではないか。

フランスの農村の育ちで 37 歳、10 回目の歩き遍路を終えるフランスワから納め札をいただいた。生涯最後のおへんろです。感動を共有してくれてありがとうと書かれている。四国遍路を守る方々にお会いしながら歩くことがなによりの修業なのだ。日本の同世代も同じように感動するだろう。あなたも歩いてみませんか。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(94) 第三次共生主義宣言

2026.5.1

「アメリカを再び偉大に」という政治が戦争を引き起こしている。人権を踏みにじり文化の多様性を破壊している。西洋近代文明の先にある世界はどのようなものだろうか。

共生主義は一つの答えだ。自己と他者の関係性を起点に哲学する知識人が提唱している。共生主義運動は2010年から始まった。2020年宣言の中心的な思想は共生である。五つの原則を呼びかけている。①人類は自然の一部である。人間は生態系と相互依存関係にある。②価値の中心は豊かさではない。互惠である。自分がして欲しいように人に接する。③個人と共同体はいずれも自己を実現する過程である。④共同体のために折り合いをつける行動が重要である。⑤人間は生態系の限界に留意しなければならない。2026年に発表された「第三次共生主義宣言(邦訳:青木三郎)」は新・共生主義と銘打っている。暴力の回避、相互尊重、生態系との共存について具体的な指針を示している。

量子力学は関係性こそ宇宙の本質だと明らかにした。哲学者にその波紋が広がっている。地球システム・倫理学会(会長:川勝平太)は、20年前から活動を続け、11月に「通底する価値を未来につなぐ」学術大会を開催する。前会長の服部英二は「通底」を提唱している。男性と女性、自分と他者が相互に心を振るわせ共鳴するのが通底である。そのために異なる文化を旅して「心が響く理性」を磨くことを推奨している。なんとも魅力的な提案である。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(95) 先代が今生きていたら

2026.6.5

ものづくりを代々の家業とする当代は、何を大切にして何をつくっているのか。経営哲学が気になる。

中村弘峰さんは40歳の博多人形師、中村人形の四代目である。幼い時から人形師を継ぎたいと思って育った。東京芸術大学を卒業し、有田焼の今右衛門、太宰府天満宮で修業をして父に弟子入りした。五月人形は江戸時代の人形師がその時代を象徴する英雄を形にしたものだ気づいた。野球選手とアメフト選手をアスリート・シリーズとして2018年に世に問い絶賛された。伝統的な人形、動物シリーズなど作品は多岐にわたる。心の潤いを形にする「生きた伝統工芸」を目指している。

榊田隆一郎さんは60歳。富山市岩瀬にある榊田酒造店の五代目である。榊田家は、代々稼ぎを地域と教育に貢献してきた家柄だ。当代は日本の戦後80年を意識して目を世界を向けている。カッコいい日本を表わす仲間を大切にして活動している。2004年に岩瀬まちづくり会社を起こした。新川町通りにはレストラン、彫刻、ガラス作家、鍛冶屋が軒を並べ多くの人を引き寄せている。本業の満寿泉はどの銘柄も清新で感動する美味しさだ。

おふたりの共通点は「先人が今生きていたら」という補助線を引いて経営していることだ。その視座から伝統が次代に承継されていく。自分の美意識と価値観を貫き、心から良いと思うことに集中する。おふたりとも技術と知識はもとより行動力と国際感覚を兼ね備えている。先代の積み上げてきた伝統が、今を生きる仲間と見事に共鳴していると感じる。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(96) レンマの知性 ホモデウスとレンマ①

2026.7.3

人間は物事を時間軸に沿って分類して整理して並べたいという欲求を生まれつき持っている。古代ギリシャ人はその機能をロゴスと呼んだ。生物には全体を直観で判断する能力がある。古代ギリシャ人はその機能をレンマと呼んでいた。レンマは未開社会には広く存在していたが、ギリシャ哲学に足跡は少ない。農業以来の産業が言語を発展させ、ロゴスの知性が有用だと考えられていたからだ。言語化が難しいレンマは、近代以降も学問として注目を集めなかった。

レンマの知性を論理体系として構築していたのはアジアである。4世紀に中央アジアで華嚴経が編まれ、7世紀に中国の法蔵が華嚴五教章を著してレンマの知性を確立した。大乘仏教にいう縁起の論理である。

人工知能によってシンギュラリティ（人間の知能を超えた存在）を迎えるホモデウスは、科学では解明されていない領域にレンマの知性を役立てようとするだろう。中沢新一は「レンマ学（2019）」において、哲学者山内得立の「ロゴスとレンマ（1974）」と大乘仏教の縁起の論理を出発点にレンマの知性の基礎と可能性を整理した。

アインシュタインが不完全だと評価した量子論は発展過程にある。大乘仏教を研究に役立てている物理学者は少なくない。南方熊楠は脳と中枢神経を持たない粘菌が知性を発揮していることを明らかにした。レンマの知性を基盤とする生命の発現と活動、生態系の解明はこれからである。次回から、②縁起の論理とレンマの知性、③レンマの知性と現代数学、④レンマの知性を生活者が役立てる方法を取り上げる。

（デザインコンサルタント 岸本吉生）

HOME

(97) 華嚴教が示す縁起の論理 ホモデウスとレンマ②

2026.8.7

不変の実体があると仏教が論じた時代があった。あるかないかの二項対立である。そこから抜け出して空を唱えたのはインドの僧龍樹である。中論を著し四句を提唱した。ものが自身から生まれる。ものが他者から生まれる。ものが自分と他者から生まれる。ものが原因なしに生まれる。火と薪を分けることはできない。関係性という観念が大乗仏教に位置づけられた。

関係性の論理を体系にしたのは 7 世紀の唐の僧法蔵である。華嚴五教章の著者として知られる。華嚴経は縁起の論理を基にする。一つはすべてとつながり影響しあうと観念する。自己と他人、人類と自然は切り離せない。

法蔵は華嚴経の世界観を二つの形式で提唱した。「十玄縁起」はあらゆるものが溶け合う様子を 10 項目で説明する。「六相円融」は相別同異成懐の六つの相を示し、なぜ十玄が矛盾なく一つの秩序になるかを証明する。定義を静かに読むと、生命体と生態系にぴったりの事例がいくつもある。生命体は互いに影響して共存しているのだから当然だろう。関係性は物理学では常識になりつつある。カルロ・ロヴェッリは、すべては関係の中で存在するという論文を 1996 年に発表し、関係量子力学を提唱している。

現在の自然科学は縁起の論理を取り込みにくい。同一律、矛盾律と排中律が数学の公理に関わっているからだ。量子論では非局所性、非可換性といった現象を科学する必要から、公理を変更する数学が登場しつつある。縁起の論理を取り込んだ数学がこれから発展し、物理学と生命科学に大きく貢献するだろう。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(98) 縁起の論理の数学 ホモデウスとレンマ③

2026.9.4

華嚴經の縁起の論理の基本となる空は、実体のあるものもないものも包摂する。実在は空から生じる。その作用を縁起という。直観的に言えば数学のゼロ、正数、虚数に近い。伝統数学において、量を表わす基数と順序を表わす序数はどちらも正数である。数学は負数、ゼロ、虚数と数の概念を拡張してきた。電気、量子をはじめ重さ以外の要素が鍵となる物理現象の説明に有用だからだ。

法蔵は基数と序数はいずれも自性を持たないと述べている。伝統数学では1があるから10があり100がある。法蔵は100があるから10や1がある、あらゆる数は互いに影響しつながっていると考えていた。

中沢新一は縁起の論理の数学には複素数を使った行列の掛け算が必要だと述べている。虚×虚は負、負×負は正、正×虚は虚である。複素数を使うと二項対立が生じない。行列の掛け算は非可換性 ($A \times B \neq B \times A$) があり量子スピンや生命活動における量子の働きなど相互作用のある自然界を記述しやすい。

光吉俊二は、ゼロとイチを公理とする幾何学と代数学に代わる新しい数学を研究している。原点に極微の虚数において縦軸横軸とも虚数の空間を想定する。平面に正数と負数と虚数を表現できる。複数の要素が変化しなら全体として一つの秩序を保つかさね算など四則和算を提唱している。東京大学、京都大学の研究者から革新的と評価され共同研究が進んでいる。直観を表現する手段としてのこれらの数学は、人工知能の発達とともにますます注目されるだろう。

(デザインコンサルタント 岸本吉生)

HOME

(99) 直観を磨く ホモデウスとレンマ④

2026.10.2

ゼロイチの二元論で計算するコンピュータは、計算すると答えが出る問題を得意としている。曖昧（あいまい）なことは不得意だ。縁起は、すべては相互依存して諸行無常だと考えるため、計算して答えを導くことには向いていない。全体を直観して独創的な答えを導くための論理だ。人工知能に助けられる私たちホモデウスは何に生きがいを見出すだろう。

宮大工の小川三夫さんからうかがったエピソードがある。法隆寺の五重塔の設計図は恐らくなかった。心に描いたものを仕上げた。弟子に入った一年間は刃物研ぎだけをさせられた。振り返るとあの一年で宮大工の仕事を授けられた。材がどうなりたいかは刃物から教わることに気づいた。直観力を鍛え、コンピュータにできないことをする。その能力を鍛える生き方が、生きがいと生計を立てる糧になるだろう。

マーケティングの理想は、販売努力をしなくても売れることだ。マネジメントとは、何とかして事業を存続することだ。ピーター・ドラッカーの二つの格言は、人工知能時代に輝きを増す。他者が憧れ、喜ぶなにかを創造する。世間をどう認識してなにをどう発想するか。そのための教室が増えていくに違いない。野口裕之先生の清風学舎はその一つである。身体が感覚を持っていることを体験する貴重な教室である。科学は分けて答えを探すけれど、分けるとわからないことがありますよ、と中村公隆大阿闍梨から 20 年前に教わったことが、縁起の論理だということを改めて実感している。

（デザインコンサルタント 岸本吉生）

HOME